平成30年9月15日発行　ライセンスメイト　第1巻250号通巻576号（年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行）　昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE
ライセンスメイト

成就するまで継続する

インターネット生放送番組

スタジオ日本 日曜討論

touron.live

[毎週日曜日10:00～12:30]

目 次

祝辞…… 1
ごあいさつ…… 2
番組に出演して…… 5
支える会の活動と実績… 11
放送のあゆみ…… 15
支える会のあゆみ…… 31
支える会役員・会則…… 33
番組の視聴方法…… 34

発行所 株式会社 日本教育開発

スタジオ日本日曜討論と共に自由な言論を考える

衆議院議員　鬼木（おにき）　誠（まこと）

スタジオ日本「日曜討論」が16年目を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。「成就するまで継続する」という意志の下、さまざまな曲折を経てもやり遂げようと努力される様に感銘を受けております。

今年の通常国会は会期150日間。プラス32日間の延長もありましたが、結局のところ憲法審査会はわずか三回しか開かれませんでした。それも理事の選任や閉会中審査など形式的な手続きだけで、通算の開会時間も10分程度と、まったく内容の無いものでした。衆議院、参議院それぞれで3分の2以上の改憲勢力があると言われている安倍政権ですが、憲法改正の国会審議の現状はかくのごとくお寒いものです。野党が憲法審査会を「開く」ということに合意しない限り、憲法改正発議に向けた議論さえ始まらないのです。今国会が延長せざるをえなかったのは、ゴールデンウイーク前後の野党による「国会18連休」がこたえています。この「サボタージュ戦略」を打ち破らなければ、憲法改正も成し遂げられません。その打破のためには世論の後押しが必要です。国会のあるべき姿として、「議論すべきテーマについては議論を進める！」ということを国民の声で求めていただくことが必要です。最近ではメディアによる「言葉狩り」とも思える事象が見受けられます。議員の発言の一部を切り取って叩き、「撤回しろ！」「謝罪しろ！」「議員辞職しろ！」と、国会前でデモが起きます。リベラルとは多様な価値観を認めるものであるはずなのですが、そこには少しの寛容さも見受けられません。そうした光景を見るにつけ、「言論の自由って何だろう？思想・信条の自由って何だろう？」と考えざるをえません。最近ではYoutubeにおいて保守思想の動画が削除されているとも聞きます。さまざまな困難があろうかと存じますが、「日曜討論」では今後も自由闊達な言論活動をリードしていただきたいと願います。

保守報道番組の草分け的存在、スタジオ日本 日曜討論

九州国際大学学長　西川（にしかわ）　京子（きょうこ）

日曜討論に出演させていただいたのは、随分と以前のことになりました。何回かの出演の中で一番印象に残っているのは、やはり第一回の出演の時でした。日曜討論自体もスタートしたばかりとあって、小菅代表、スタッフの方々と出演の私と、みんなが手探り状態のとても新鮮な雰囲気だったことが思い出されます。

私は北九州の選挙区で当選したばかりの頃で、かなり張り切って自論を展開したように思いますが、小菅代表がとても上手に受け止めて下さり、当時ジェンダ・フリーに代表される男女共同参画活動の問題点を集中して、あそこまで討論した番組は、おそらく当時初めてだったと記憶しています。

私が何より驚いたのは、日曜討論が専門学校の経営者でおられる一個人の小菅代表の熱い思いからスタートしているということを知った時です。様々な自論を述べたり、評論をする方は大勢いらっしゃいますが、小菅さんのように小なりと言えども一報道番組を作って、信念に基づいて報道してしまう方はそうはいません。今でこそ「チャンネル桜」や「言論テレビ」等の著名人がそれぞれネットテレビを立ち上げていますが、小菅さんはそういう動きに先んじて、いわば草分け的存在です。日曜討論を通じて広がった人脈を大切に連携させて、活動の輪をさらに広げておられ、中でも台北駐福岡經濟文化辨事處との交流や産經新聞社西部本部との絆を深めて、日本の誇りと国益を中心に据えた活動の成果は、着実に実りをもたらせています。議員を引退してからは、たいしたお手伝いもできませんが、一応援団員として今後とも末永くお付き合いをさせていただきたいと思っています。

平成の元寇といかに戦い、勝利していくか

（専）ライセンスカレッジ理事長　小菅 亥三郎（こすげ いさぶろう）

現在わが国は外国資本による領土買収という深刻な危機に直面しています。この侵略は弾丸のかわりに札束と賄賂が飛び交い、ビジネスの装いで進行しています。合法的な商行為として行われていますので「イージスアショア」などでは決して捕捉できません。GDP比でいえば10％もの国防予算を組もうと民間人同士の取引ですので、そもそもその戦いの対象にすらなりません。

それでは敵国はどこでしょうか。いわずと知れた一党独裁の共産中国です。自国で土地の私有権が認められない「人民」は奔流をなして海外に出ていきます。想像を絶する居住環境の悪化がその衝動を後押しします。その先頭に立つのが共産党をいただく企業集団です。個人でなくこのような国家的企業集団が買収の当事者であることは、買収の規模、寝かし期間、秘匿性等から明らかです。

それではなぜ領土を必要としているのでしょうか。答えは植民による開拓と中国人だけの町づくりです。究極的にはわが国の占領と属省化です。

それでは共産中国がこのような戦いを仕掛けるのはわが国に対してだけなのでしょうか。否、世界中のあらゆる国に対して行っています。その基本戦略が「一帯一路」、すなわち「遠交近攻」、「軟土深耕」の現代版です。

それでは私たちは何をなすべきでしょうか。それは何といっても「この事実と事態」を手を挙げ声を大にして訴え、あらゆる場で露出していくことです。「日本人に本当のことを知らせない」、「共産中国にとって都合の悪いことから日本人の目をそらさせる」、これを広報戦略とする彼らは、NHKを含むわが国のマスコミを下僕のように使嗾し、その貫徹に余念がありません。ですからこの事実と事態をあらゆるチャンネルを駆使し露出していくことこそ大切なのです。赤頭巾ちゃんに襲いかかろうとしている狼を報道するに、お化粧した顔ではなく、毛だらけの足にこそカメラを向けなくてはならないのと同じです。

それでは戦いの立脚点をどこに置くべきでしょうか。私たちは「占領憲法下の国民の意識」では拳ひとつ振り上げることができません。今こそ「明治臣民の自覚と心根」に立ち戻るのです。飽くことなく豊かさを求める欲望より、たとえお粥を啜ってでも旧図を保持する臣民の歴史観、使命感を上位に置くことです。

次は危機に陥った時、わが国の先人たちがとった生き方、戦い方、勝ち方、治め方を徹底して学び直すことです。また世界中いたる所で日々生起している共産中国の身勝手な振る舞いに対して各国の政府や国民はいかに反撃し撃退しているか、あるいは屈服し滅ぼされてしまったかを教訓化することです。自国の歴史軸を見つめ直し、世界の空間軸を学習するにはまたとない機会が訪れたのです。

しかし、戦いは無慈悲です。

１、指導者や指揮官が臆病で勇気がなかったら敗北します。無能で依頼心の固まりでも結果は同様です。
２、占領憲法を変える力がなかったら敗北します。意識は占領された状態から依然として脱却できないからです。
３、日本人の少子化に対し出産奨励を標語化できないような政府では敗北します。国民がいなくなるからです。
４、先人の勲を無視黙殺封印するのみならず、歪曲し続ける教育を廃絶し、反日日本人の量産工場を閉鎖しない限り敗北します。どの国の崩壊も原因は獅子身中の虫だからです。
５、自衛隊を国軍にし、自衛官を軍人に昇格させ、国民に認知させない限り敗北します。「自衛のための戦いに死を賭す部隊」がなくなるからです。
６、中国資本による領土買収を法規制できないようなら敗北します。国土がなくなるからです。
７、反日侮日憎日仇日の言語空間を意図的に創出し、国民が育たないようにと四六時中、フェイク情報を垂れ流すメディアの改組改変ができなかったら敗北します。目と耳と口が敵方に奪われた状態だからです。

今、スタジオ日本はかくなる状況下におかれたわが国の国民に対し、いかなる指針を示しうるか、その真骨頂が問われています。平成30年8月12日までの番組放送15年776回もの日曜日に手弁当で出演され、声をあげて下さった3,895人もの皆様の言葉が「勝利に向かっての救国の教則本」だったのか、あるいは「愚にもつかない民放並みのダベリング」だったのか、判決が下される日は間近です。襟を正して16年目を担っていく所存です。

『日曜討論』は、日本人が真実を知り、本来の日本人に戻るために

九州伝承遺産
ネットワーク特別顧問　原田（はらだ）　泰宏（やすひろ）

『スタジオ日本　日曜討論』の出演者養成を目的とした「日本人講座」に、最近小さな子供をお持ちの女性が多く入会されています。入会の動機は、「中国や韓国が戦前の日本の悪行を言い立てて日本への攻撃を強めている、中国は歴史的に正当性があると言い立てて軍事拡張や日本内政への圧力を増大し日本を絡め取ろうとしている、身近には、我がもの顔で天神を歩く中国・韓国の観光客が顕著に増えており日本人が安心して通行や買い物ができない等の不安を感じ、将来子供達が日本人として幸せに生きられるか心配しているが、問題とされている近現代のことを何も知らない（学校で習っていない）ので、勉強したい」というのが、ほぼ共通しています。

これらの不安や想いはもっと多くの日本人が持っていると思います。なぜそうなったかというと、先の戦争（大東亜戦争。占領時に太平洋戦争と呼ぶように強制された）後の占領において、ＧＨＱ（主体はアメリカ人）により、日本人に近現代史を知らしめないように、日本人としての誇りを持たせないように、戦争の贖罪意識を植え付けるように教育がなされてきたからです。例えば、「戦前の日本は軍国主義で国民は圧制されており、戦争によって日本国民は解放され、民主主義によって素晴らしい国に生まれ代わった。戦勝国は日本国民の救世主なのです。」といったものです。事実は逆で、戦争国に都合が悪い事は隠ぺいし、都合がいい嘘を教えたのです。

なぜそうしたのでしょうか。それは今後、戦勝国に刃向わないようにするためです。武力による戦い（3年9か月）で日本を負かしただけでは日本人が再び力をつけて反撃してくるかもしれないので、6年8か月も掛けて日本を占領して、日本人の意識を改造（「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム」）したのです。また、自国で日本が守れないように憲法をも変えました。ここまでしないとＧＨＱが安心できなかったということは、逆に言えば、日本人がいかに強く、いかに優秀であったかということです。

戦後の日本は、占領政策がいまだに効果を発揮しており、その結果が現在の日本人です。本来の日本人（原日本人）の育成はＧＨＱ（アメリカ）により廃止され、近現代史を知らない、自国に誇りが持てない日本人もどき（ジャパン人）が育成されてきたのです。昭和27年4月28日に占領が終わり、日本の主権が回復した後は、今に至るまで日本人の手によってジャパン人が育成されていることは、日本人自身の責任です。

中国、韓国を除くアジアでは、いまでも賞賛されている原日本人がいたこと、明治維新を経て有色人種として初めて西洋列強に比肩するまでに近代化（西欧化）を成し遂げたこと、世界で初めて人種差別撤廃を国際連盟に提言したこと、道徳を重んじ、東南アジアの独立、発展、公のため命を掛けて尽力した原日本人がいたこと、これらの精神的支柱が日本精神であること、幕末・明治維新から開戦・敗戦までの歴史や占領時代のＧＨＱの日本・日本人改造政策がどんなものであったか等を知れば、ジャパン人は原日本人のＤＮＡを持っているので、きっと原日本人に戻ることが出来ると確信します。

『日曜討論』は、ジャパン人が気付くきっかけと原日本人回復への手助けのため、真実を発信し続けることが使命だと思います。そして、日本の子供たちに先人が築いた誇りある日本を受け渡して行きたいと思います。

日本のメディアの終焉は近い

元会社員　木下（きのした）　修（おさむ）

我々が世の中に義憤にかられこの『スタジオ日本　日曜討論』に出演し続けるのはなぜだろう。それは大手メディアが言わない、また言いたくても言えないことを市井の我々が自由に発信できる唯一の番組であるからだろう。

昨年来大手メディアはモリカケ問題等の安倍政権のスキャンダル報道でかまびすしい。またテレビのワイドショーと呼ばれる番組はそれに増して酷い。煽情的で番組の視聴率につながるのなら何をしても良いのだという姿勢は彼等の驕りにしかみえない。これだけ国会でも取り上げられ多大な時間を費やしても法的な根本的瑕疵は見当たらないが、メディアと野党は追及をやめようともしない。明白な倒閣運動である。

このところの彼らのマッチポンプ振りはとうに見透かされており、以前のようには国民の理解や賛同は得られない。それに気付いておらず十年一日のごとく自分たちが世論をリードしていると勘違いしている様は滑稽としか言いようがない。

先日産經新聞の阿比留瑠比氏のコラムで、左翼イデオロギーと親和性のある福田康夫元首相の内閣支持率が朝日新聞の世論調査において内閣最低の19パーセントを記録した時のベタ記事扱いに比べ、安倍内閣の支持率が31パーセントとなったときはトップ記事で何面もの紙面を割いて特集していたことをダブルスタンダートだと書いてあったが、驚きはなくさもありなんと感じただけであった。

ある程度事情が分かっている読者にとって同じような感想でないかと思う。彼らにとってメディアの使命は「権力の監視」のみだと思い込まされているかのようだ。そこには事実を分かり易く国民に知らしめ、国民の判断に任せるなどの思いはないようでひたすら傲慢に彼等の考えを広めているだけとしか思えない。

戦前のナチスは国民を洗脳するために一家に一台のラジオを配った。戦後の日本ではNHKを筆頭に同じ論調によるメディアの圧倒的な暴力によって世論が形成されてきたことは間違いない。しかし今はネットの普及によって、それがわかる人にはわかるようになったことが以前との大きな違いである。さらに新聞の購読者が激減しており私の身近な人に聞いても購読者は驚くほど少ない。幾ら新聞を読むように若い人々に勧めても、彼らは分かっている。何にも役に立たないことを。

今は新聞を購読しているのは、特定のイデオロギーに沿うた記事を欲する年代層だけではないのか。つまり朝日、毎日が信奉するGHQの洗脳の呪いが解けない世代だけだろう。そうなるといびつな戦後教育を受けた世代の交代が彼等の終焉となるのだろう。つまり日本のメディアはこの呪縛を解かなければ益々自分たちで自らの首を絞めていることになろう。

国益を守り 真実を語り 誠心を尽くすことに 休日なし

番組に出演して

早いもので『日曜討論』も間もなく 16 年目（平成 30 年 10 月）を迎えようとしております。そこで今回は、放送開始 15 周年を記念して今まで出演にご協力して下さいました皆様のご感想やご意見をご紹介させていただきました。

「スタジオ日本 日曜討論」は毎週日曜日午前 10 時から 12 時 30 分までのインターネット生放送番組として配信しています。番組のURLは、https://touron.liveです。または、インターネットで「スタジオ日本 日曜討論」と検索しますと番組ホームページよりご覧いただけます。

※肩書きは番組出演時のものを記載させていただきました。

世界から見た「私は日本人」という誇り

㈱HAS　代表取締役
田中道夫（たなかみちお）さん

日本という国に生まれたことの幸せと誇りを「日曜討論」と「日本人講座」に参加することで学んだ事は、最大なる財産と確信しています。ここに参加することによって、正しい真実の日本の歴史がどのようなものなのか見えてきます。しかし、GHQの政策による間違った歴史観を日本で生きている現代人は学ばされています。戦後教育から現在までずっと、日教組は間違っていませんか。例えば、智弁学園高校グループは韓国へ日本人謝罪研修旅行を40年以上続けています。このような例は、真実の歴史を学ぶことができなかったことが、大きな原因だと感じます。間違った家庭教育、学校教育、社会教育は国を滅ぼします。

明治維新から150年、日本は現在、国際情勢から見ても存亡の危機の時代に入ったと言えます。歴史的自虐史観は私には全くありません。日本人講座で戦前までの日本人の教育が世界でもトップレベルであったことを理解することができました。また、今年で20年継続している台湾慰霊訪問にも参加して、台湾を知る事が明治以降の日本の歴史を学ぶ旅であると感じました。台湾に行くことで、自虐史観なんて吹っ飛んでしまいます。逆に日本人であることの誇りさえ感じます。戦後73年経ちますが戦後は未だ終わってはいません。日本国を自国民で守る事ができない現状は、いったい独立国と言えるでしょうか。国会で不毛な論戦をしている野党や政治家、はたまたオールドメディア(産經新聞を除く)の人に、あなた方は本当に日本人ですかと私は聞きたい。

国を守れない全ての原因、憲法第9条第2項の改正が最優先ではないでしょうか。米国から押し付けられた憲法は、日本民族の文化と伝統を骨抜きにするものでした。それは米国が先の大東亜戦争で一番恐怖を実感している国、日本と二度と戦いたくなかったからです。元寇から国を守った鎌倉武士、欧米から国を守った明治維新の志士たち、日本は素晴らしい「日本精神の歴史」のある国です。全世界に誇れる民族です。

私は、この日曜討論や日本人講座、台湾慰霊訪問で数多くの方々と出会い、「愛国心」とは何なのか、真の歴史とは何かということを学び続けている現在です。「自分が変われば世界が変わる」と信じて、悪戦苦闘しています。

先人が命がけで守った領土、皇室をこれからは私達が引きつぐ

会社員
田口俊哉（たぐちとしや）さん

スタジオ日本日曜討論番組の放送が開始されて本年度10月で16年となる。平成15年10月5日から毎週日曜日に1回も欠かさず続けて来られた事に、改めて驚きと感動を覚えます。『国益を守り　真実を語り　誠心を尽くす事に　休日なし』この語りは毎回番組の冒頭に流れる主催者の偽らざる心情であり、又現代の日本人が忘れ去ってしまった最上級の日本精神であり、そしてうすら汚れた戦後の言語空間に日本本来の大和風を吹き込んでくれるようなフレーズで、何と逞しく清らかな言葉でしょうか。

GHQによる想像以上に惨たらしい占領統治政策に気が滅入る毎日ですが、戦後レジームからの脱却を目指し、最大の武器である放送、スタジオ日本日曜討論番組を通して、私達の先人の方々が命がけの覚悟で守ってくれた領土、皇室をこれからは私達がそのバトンを引きついで特攻精神で全力疾走して参りたいと思います。

日本人講座との出会いに感謝

岩屋城史の会代表主宰
柴崎一郎（しばさきいちろう）さん

講座へ伺った四年前は、一般的な勉強会の積りの参加でした。ですので基本書を戴き五箇條の御誓文始め典憲・詔書等の難解な字体群を拝見した時、私は正直これは脱落するなと密かに思いました。その不安を払ってくれたのが、その際に必ず全員で声に出し合って読む唱読でした。不思議でしたが意味は解らなくても、その響きは心地良く清々しくそして誇らしく感じれたのです。この不思議な感覚が、その後ずぼらな自分を継続させてくれる力となりました。又この感覚は参加する度に深まるばかりで、気付けば二日市分講を開かせて頂く処まで嵌まってしまいました。今では神武創業に達ち戻る明治維新より世界回天の端緒を開かしめた大東亞戰爭に至る偉大な歴史的言霊として、またそれを宿す珠玉の原典(原点)として無限の力を講座の中に感じ感謝の思いで参加させて頂いています。

真実を学び、日本人を取り戻すための場が日本人講座

会社員
髙橋幸久（たかはしゆきひさ）さん

戦後日本人を弱体化させるGHQの呪縛から抜け出せないまま、平成の御代が終わりを告げようとしています。マスコミの偏向情報が横行する世の中で、真実を学び、日本人を取り戻すための場が日本人講座です。私は平成28年7月9日に初めて日本人講座に参加しましたが、まさに求めていた学習内容でした。貸与される基本書は明治人の視座を学ぶために編集されており、その素読と小菅先生の解説を通じて、天皇と臣民の関係、戦前までの日本史、大東亜戦争の意義、軍人や臣民の心柄など、現在の歪んだ言論空間で学ぶことが困難な基本事項を整理して学ぶことができます。

私は毎回心が洗われて、戦前の立派な日本人に近づいたような気がしますので、日本人講座は心の拠り所となっています。基本書以外にも台湾や領土問題などの話題を取り上げて学習し、さらに場所を変えて直会を行い、知識を常識にまで変化させるプログラムもあります。

小菅先生、五郎丸先生をはじめ、幹事の皆さまにはご多忙の中、資料作成などご苦労の多いことと存じます。いつもありがとうございます。

日曜討論が目指すものとは

高等学校教員
福田章枝（ふくだあきえ）さん

私は平成29年4月30日に初めて日曜討論にゲストとして参加しました。実は出演を要請されたとき、前年度に日華（台）親善友好慰霊訪問団の団員として参加させていただき断ることはできないという思いでした。番組が終了した時は、肩の荷が降りた思いでほぼ丸一日を費やす働きにこれで誠意を尽くしたと思ったのをよく覚えています。ところが、これで終わりではなく始まりだったのです。しばらくして幹事の田口氏より日本人講座へのお誘いを受け、まずは参加してみようと思いメンバーに加えていただきました。日本人講座が土曜日であったこと、18時開始であったことが繋がることができた要因であったと思います。最初の頃は、日本人講座のクラスが始まる時間まで女性が私一人のような状況で、あとは錚々たるおじ様方ばかりで、ここは私のような者が居ていいのかなと非常に不安を覚えたものです。しかし、そんな心配は全くの無用で活発な女性のメンバーの方々との交流をはじめ日本を取り戻す、日本人としての在り方を真剣に考え実践へと取り組んでいる仲間であると、いつしか同志として私たちは天に向かっていることを確信しております。虫が食うような地上に宝を積むのではなく、後世のために私たちができることを今より少しでも良いものにしていきたいと願っております。

その後も何回か日曜討論に参加させていただき、私がこれまで全く理解できていない分野のテーマのときは日曜討論のレベルを下げることになりはしないかと、とても責任を感じました。そのようなとき、いつも、幹事の田口氏は、分からなくてよい、素人だからこそいいのである、いっしょに勉強していきましょうと励まして、あるいは慰めてくださるのです。今、ふっと自分の書棚をみると書籍の分野がまるで変化していることに気づきました。それまで哲学や宗教、教育学分野、時事問題が主であったのが日本史、古事記、政治の分野が新たに占めるようになっています。今年度7月8日から8月12日の間に取り上げている日曜討論のテーマは「日本再発見」です。日本史の事典、辞典には確かに「岩屋城の戦い」のことは書かれていません。しかも「郷土から消された歴史―落城・岩屋城の戦い」の学びから考えさせられることは、先人たちが命を懸けて国防に取り組んできた結果が現在の日本であるということです。その日本が、今、合法的に外国人に土地が爆買いされておりとても危うい状況にあること、このまま手を拱いていてはいけない、政府も当てにはでき

ない、私たち国民が今こそ危機意識をもって取り組んで行かなければ日本は自国の領土を失うことになるという危機的状況です。自分一人では成しえない取り組みを日本人講座・日曜討論の目的を視座に志を一つにして立ち向かっていく同志が一人でも多く現れますようにと願い求めております。

日曜討論とのご縁に心より感謝

元むなかた助産院院長
福岡県いのちを守る会会長
賀久はつ(かくはつ)さん

6月15日、数え年82歳の誕生日の朝、目覚めと共に和歌が涌き出ました。

梅雨寒に　八十路を超える誕生日　今生の出合い
何と深きか

日曜討論とのご縁を頂いたことも心より感謝です。永い人生を振り返ると、多くの出会いで学びがあり、自己を知り、更に自身の役目に気づくものです。この活動の皆様は和の心が根底にあり、和は信頼～安心～感謝につながると思います。日常のニュースでは人間として成長していると思えないことが報じられていますが、根っこは家庭ではないでしょうか。本来、家庭は子育ての場であり、ヒトとして生まれた赤ちゃんを10歳で人間に育てるのが親の役目です。この大切な家庭の機能が昭和の終わりころから自己実現の場に化してしまいました。更に過剰な個人尊重が家庭、学校、職場の枠を超えて責任を持たずに権利のみ主張する人間が増えたと思われます。枠を壊さず、支え合う家庭教育こそ品格を整えた社会人に成長して国の安泰につながると思います。

「豊葦原の瑞穂の国」存続に核ミサイル等重武装の強大な軍事力構築が急務である！－強大な軍事力は国民の流血皆無を保障し、保証する唯一の最大最高の福祉である－

元会社員、元公益法人職員
吉田重治(よしだしげはる)さん

日曜討論番組「日本人講座」視聴で古来より山紫水明四季おりなす豊かな樹木と清冽な水に恵まれた世界でも類稀なる土地柄の日本列島で熟成された「豊葦原の瑞穂の国」誕生と日本伝統の由縁に感銘し、感慨に耽る。斯かる土地柄で育まれた日本民族は総体的に優しく穏やかである。漢民族、ﾛｼｱ民族等大陸民族は過酷な土地柄で総体的に獰猛な民族である。天然要塞の温室列島育ちの日本民族は時代の進歩が天然要塞を無力化し、獰猛な民族からの侵略に直面したのが元寇、日清・日露戦争であった。大東亜戦争敗戦後の日本の現状を元寇、日清・日露戦争より格段の危機と認識できないのが日本の最大の危機でもある。大東亜戦争で日本は米国にのみ敗戦した。英国、蘭国、中華民国(蔣介石)に実質戦勝し、旧ソ連や現中共(1949年建国)と戦争していない。

日本国無力化・日本人骨抜化の根源はGHQ(連合国軍総司令部)のWGIP（ｳｫｰ･ｷﾞﾙﾄ･ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：日本に100％戦争責任転嫁の洗脳策）のGHQ製現行憲法前文の『平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した』と第9条第2項「戦力の不保持」・「交戦権の否認」や公職追放[ﾎﾜｲﾄﾊﾟｰｼﾞ]での教育界[日教組]・大学界・ﾏｽｺﾐ界等への反日勢力の配置・増殖にある。日本民族の「優しく穏やか」を利用し、自立・自力防衛思考停止へと日本国民を飼い馴らした。斯かる国難において「豊葦原の瑞穂の国」の存続に「日曜討論番組を支える会」の真正「草莽崛起」活動は歴史に根差す真正愛国救国啓発活動であり、光明である。「草莽崛起」は吉田松陰の唱導であるが国難の時機に長州出身の安倍総理が「戦後ﾚｼﾞｰﾑからの脱却」を目指し、「日本国と日本人を取戻す」憲法改正への取組は歴史の機縁であろう。安倍政権打倒を企む反日野党や反日ﾏｽｺﾞﾐ等売国勢力[＝護憲勢力]は「モリカケ」虚報で国民を洗脳し、[尤も日本人が洗脳され易いのは温室育ちの特性であろう]日本の内部崩壊を謀る中共や北鮮の「白蟻作戦」工作員・代理人であろうし、「現行憲法護持＝平和」の虚構を熟知の確信犯で日本の軍事力強化を阻止し、彼らの心の祖国中共の日本侵略手引の走狗であろう。事実、反日野党に擬装帰化大陸・半島出身議員が多い。中共[アムール（シベリヤ）虎]、ロシア[羆]、北鮮[大陸狼]、韓国[狐]の猛獣国に侵略[領土占拠]され、沖縄諸島侵略に直面の日本は将に元寇再来の危機にある。羊の儘では「豊葦原の瑞穂の国」は滅亡する。安倍政権は「羊」⇒「柴犬」⇒「秋田犬」⇒「土佐闘犬」の変身を目指し、防衛力強化しつつあるが中共[アムール（シベリヤ）虎]からの日本防衛には日本の[ベンガル（印度）虎＝核ミサイル]までの変身が必須である。

日本[ベンガル（印度）虎]＋米国[ライオン]の真正同盟こそが中共[アムール（シベリヤ）虎]＋ロシア[羆]の侵略を阻止できる。嘗て高度な文化で繁栄の弱小軍事力のｲﾝｶ帝国は野蛮で強大な軍事力のスペインに1532年に滅亡させられた。「高度な文化の軍事小国は野蛮で強大な軍事大国に滅亡させられる」は学習すべき酷烈な歴史教訓である。処で米朝首脳会談は強大な軍事力構築の必須性を立証した。北鮮[金氏朝鮮]は核ミサイル等軍

事力の強大化驀進で米大統領を引出した。米大統領は超強大な軍事力の圧力で北鮮[金氏朝鮮]を圧出した。強大な軍事力こそが成し得た現実である。中共もロシアも核ミサイル等の北鮮を米国への衝立に利用し、北鮮も中露を強かに利用するが、核ミサイル軍事国家同士こその成し得る駆引・取引である。非核ミサイル国日本を歯牙にも掛けない中露北鮮は日本の核ミサイル重装備で初めて対等且つ真剣に向き合う。国家存続の国際力学法則は強大な軍事力と覚醒すべきである。

北鮮の完全な非核ミサイル化は無い。過去の所業から自明である。何れ詐騙される米国が金氏朝鮮壊滅を決断できなければ「豊葦原の瑞穂の国」の核ミサイル等重武装決断の時である。「日本人拉致」は日本に「核ミサイル等の強大な軍事力」と「スパイ防止法」が存在すれば起きなかった。同胞の「拉致救出」ができない国家は国家ではない！「拉致救出」が解決しない場合は「朝鮮総連及び在日北鮮人[北鮮自由化活動家除外]の国外退去」を断行し、人・金・物を完全遮断すべきである！「拉致」はGHQ製現行憲法前文の虚構と第9条の国民守護の無力を立証した。中露北鮮の核ミサイルは日本に照準を当てている。強大な軍事力構築こそが敵性国の侵略企図を沮喪させ、侵略を未然に阻止し、「豊葦原の瑞穂の国」存続と国民の流血皆無を保障し、保証する唯一の最大最高の福祉である。日本の核ミサイル等重武装構築が焦眉の急である。貧国北鮮より遥かに経済力を有す日本が質・量で優る核ミサイル等重武装を国民の覚醒と覚悟の総力で実現できる！尤も軍事力強化の最即効策は当面、核ミサイルや原子力艦船等の米国からの購入であるが「スパイ天国日本」では米国は極秘技術の粋を提供しない。「憲法改正」と「スパイ防止法の制定・体制構築・徹底実施」の両輪が必須で急務たる所以である。

日本人講座を受講し始めての感想

元会社員
久保山 一雄（くぼやまかずお）さん

幼いころから「日本男児として生まれたからにはお国のために命を捧げよう」と強く心がけていました。しかし、偉い人になる能力はないので、せめて特攻隊員に志願してお国のために潔く散ろう。とその日の来るのを憧れていました。ところが、予期せぬ敗戦になりそれまでの期待は完全に外れ、少年の頃の意気込みは急速にしぼんで、挫折したまま長い年月が流れて、幸か不幸か老害をさらす世代になってしまいました。『先の大戦は、無謀な戦であった。多くの犠牲を出したこの戦争に日本人は深く反省しなければならない。』といった声を聞くたびに、なぜ我が国は過去に類を見ない大きな犠牲を払いながら、欧米列強を相手にして戦わねばならなかったか。その結果世界各地の多くの人々は、どれほど大きな恩恵を受け、幸せになっているか。といった議論は殆ど行われないまま長い年月が過ぎ去ろうとしています。今日の世情を見るとき、私ども戦争体験者はその多くの方が姿を消し、誰のおかげで今日の平和な現状が維持できているのかといった感覚が失われているように思われてなりません。15年ほど前私は、縁あって日本会議の会員になりました。諸行事に参加する過程で、永らく荒んでいた私の心のわだかまりは幾分か溶けて参りました。近年では日本会議の会員であることにも日本人としての誇りを感じています。

高齢になり私は、心身ともに加速度的な衰えを実感して参りました。会員として求められる活動も満足に果たせない状態に成り果てていることを甚だ申し訳なく思っています。然しながら、本会の活動目的を知り、月例の勉強会に参加させて頂き多くの先人が残された偉大な業績の一端を学び続けることにより、日本人としての誇りと慶びを実感できるよう期待しています。

田口さんのファンです

自営業
森岡敬子（もりおかけいこ）さん

田口さんのファンです。日本を守るためのご活躍に感謝です。田口さんらしい現代的な視点でのご発言にも期待です。私は2・3年前に番組へ出演させていただきました温かく迎えてくださった関係者の皆様に支えられて楽しく参加させていただきました。当時に比べ、公式ホームページがより充実しておられること、また過去の出演者の声を集めてくださることに感動です。小菅団長はよく「継続は力」とおっしゃられます。まさにそれを拝見できるホームページだと感じました。ますますのご発展を祈念します。田口さんがんばってください！

今こそ、国家の危機に目覚める時だ

川崎町議会議員
シンガーソングライター
櫻井英夫（さくらいひでお）さん

いわゆるモリ・カケ問題が国会で取り上げられて世論が冷ややかなのは、一時は政権を奪取した現野党の政

権交替ノスタルジーに国民が付き合っていられないと判断しているからではないだろうか。安倍夫妻に問題があるのは確かのようだが、検察も金銭のやり取りの実態がなければ捜査には至るまい。一国の総理を捜査対象に上げるなど軽々にできるものではないと国民は承知している。また、とにかく野党には辟易、懲り懲りしている。幾ら安倍夫妻の責任追及をしたところで、恐らく政権交替には至らないだろう。それよりも、国家の危機を議論すべきではないか。国防はもとより少子高齢化と国際化（外国人ケア）で社会保障費は膨脹しつづけ税収が間に合わない。地方財政は国頼み、名ばかりの地方自治で自ら考えようとしない。国土は外国資本に買われている。本町も他人ごとではない。日曜討論かわら版で小菅会長ご指摘のとおり、国土を守る法規制が必然なのに無策なのはなぜか。放置家屋、耕作放棄地、地主不明の山林。放置された財産は国が没収するのが当然ではないのか。「国家権力の乱用」とか言い出す輩が、結果的に外国資本の手先になっている。わが国は、その環海性(自然の掘り割り)からお陰様で国土が守られてきた。150年前までは鎖国もして外国を遮断し独自の文化を育ててきた。ところが、かつての国を守る気概は大東亜戦争の敗北で霧散し(まちがった解放)、米国の幻想的利己主義に洗脳されたまま覚醒できずにいる。憲法改正の玄能でぶん殴るほかない。5月末、0歳の初孫を伴い久々に対馬を訪問した。厳原の万松院で帰りの船待ちをしていると、何とそこで奇遇にも小菅会長を団長とする日本人講座の面々に遭遇。聞けば自衛隊基地周辺の外国資本の土地買い占め調査のための訪島とのこと。対馬の地元民はこの状況をどう思い行動しているのだろうか。私も地方議会で警鐘乱打していきたい。

私の中の日本人が姿を出し始めた

主婦
廣瀬知晴（ひろせちはる）さん

「日本人講座」に初めて参加させて頂いた時、とても難しく、話の内容があまり理解出来なかったことを覚えています。内容どころか、日本語の意味もわかりませんでした。私は今まで何を勉強してきたのでしょうか…

「日本人講座」では、誰もが知ってる歴史を勉強する場だと理解していました。ところがそうではなく、「日本の真実の歴史」を学び、それだけではなく「五箇條の御誓文」「軍人敕諭」「歴代天皇諡号」などの唱和をしますが、何もかもが初めてで、聞いたことのない言葉や字ばかりでした。日本の事を知らな過ぎて驚きです。「日本人て、何か凄そう…」これが最初の講座でうっすら感じた事です。

数を重ねるごとに、言葉の意味が理解できるようになってきたこともあると思いますが、ほんの少しずつですが、私の中の日本人が姿を出し始めたような気がします。「日本人講座」とは、真の日本人を取り戻すこと。日本の九州の福岡のこの場所で、このような講座をして下さってること、そこに私がいることに奇跡を感じます。本当に有難いです。真実を知り、未来の為に今何を努力するべきなのか、私ができることはもちろん、それを上回る行動を起こしたくなります。本当に微力ですが、このような気持ちが湧き出るようになりました。これからも、しっかり学んで行動してまいります。

憲法改正をして我が国を護ろう

医師
若杉英之（わかすぎひでゆき）さん

平成30年6月、国産発のジェット旅客機(三菱航空機MRJ)が報道陣に公開された。父が名古屋製作所に勤務していたので感慨深い。現在のわが国における最重要課題は憲法改正実現です。是非とも憲法改正をして我が国を護ろうではありませんか。

日本の伝統を継承していきたい

飲食店経営
山下あけみ（やましたあけみ）さん

私は団塊の世代に生まれました。幼少の頃、まだテレビもなく、ラジオが流れているなかで卓袱台（ちゃぶだい）を囲んで家族で食事をしたのをよく覚えています。

父は休みもなく働いており、家は母が守っておりました。母は農家の生まれで田植えの時期には朝早くから近所にお手伝い行っておりました。私は小学校の時には七輪の起こし方とか、お風呂の沸かし方を習ってお手伝いをしました。お手伝いをする私を見て母も喜んでくれました。お風呂は父がいつも一番風呂でしたが、時間があるときには私たち子供3人を一緒に入れてくれました。父は戦争体験があり、私たちは両親の姿を見て育ちましたので、挨拶の仕方とかも自然に身に付いたようです。以前は正月と祝日はどこでも日の丸を掲げておりましたが、日の丸を掲げる方が少なくなり本当に残念に思います。日本の伝統を継承していきたいと思います。

三つの不可能を可能にした支援者の力

1　スポンサーなしで番組を継続させている
2　謝礼無しで出演の連鎖を維持している
3　出演者をはじめとする広範な支援者の資金負担で
　　独自のスタジオを起ち上げ放送を継続させている

ご支援ありがとうございます

「スタジオ日本日曜討論」の放送は、「支える会」会員の皆様の会費・ご支援により運営されております。ここに会員の皆様のご厚情に感謝申し上げますとともに、法人会員の皆様をご紹介いたします。

誇りある国づくりへ
国民の力を！

日本会議経済人同志会

☎(03)3476-5611
〒153－0042
東京都目黒区青葉台3-10-1
青葉台上毛ビル601

福岡県知事認可　専修学校

(専)ライセンスカレッジ

☎(092)721-0100
〒810-0001
福岡市中央区天神1-3-38
天神121ビル13階

内　科

(医)香月内科医院

☎(0949)22-3520
〒822-0007
福岡県直方市下境1147-2

総合建設業

松俵建設㈱

☎(0948)42-1033
〒820-0205
福岡県嘉麻市岩崎1554-10

家具製造・販売

㈱関家具

☎(0944)88-3515
〒831－0033
福岡県大川市幡保98-7

九州不動産専門学院グループ
同窓会

九 栄 会

☎(092)714-4341
〒810-0001
福岡市中央区天神1-3-38
天神121ビル13階

不動産取引

光志興産㈲

☎(0948)42-6660
〒820-0203
福岡県嘉麻市平607-1

賃貸管理・住宅販売・ビル事業企画

㈱リライエステート

☎(092)282-5115
〒812－0018
福岡市博多区住吉1-6-9

福岡の賃貸物件、賃貸管理

㈱ジャスト・イン・タイム

☎(092)737-0703
〒810-0022
福岡市中央区薬院2-3-10
ディアマンテ薬院(地下鉄薬院大通り駅2階)

賃貸物件・マンション

アミティエカンパニー㈲

☎(092)451-8243
〒812－0013
福岡市博多区博多駅東2-8-22
よしみビル3階

鉄鋼材、一般建築資材

㈱中部鋼材

☎(098)938-1318
〒904-0012
沖縄県沖縄市室川2-6-7

国益を守り 真実を語り 誠心を尽くすことに 休日なし

支える会の活動と実績

●FMラジオ番組「日曜討論」の誕生

平成15年8月30日に福岡市南区高宮の女性センターアミカスで「男女共同参画社会を考える」（日本会議福岡時局部会主催）という講演会が開かれました。講師の伊藤哲夫氏(日本政策研究センター所長)は「今、福岡市が制定に向けて進めている『男女共同参画基本条例』は恐るべき『白い革命』にほかならない」と喝破し、この条例の包蔵する危険性を訴えました。

この会場に聴衆として参加していた福岡コミュニティ放送㈱の渕上高当氏は、その呼びかけに応じ番組を起ち上げました。それが「FM-MiMi日曜討論」です。

FM討論会 大反響

性教育、子育て…テーマいろいろ

男女共同参画をテーマに議論を繰ねる出演者たち

早良区、福岡コミュニティ放送

空中公民館目指す

シリーズ「男女共同参画を考える」(コメンテーター：小菅亥三郎、メインゲスト：山口敏昭氏)として、平成15年10月5日から毎日曜日6回に亘って放送されましたが、西日本新聞にも掲載され、その反響は数千件のパブリックコメントが福岡市に寄せられるひとつの契機となりました。

●「日曜討論番組を支える会」の設立

反日的マスメディアが幅をきかすわが国にあって、国民の立場から情報発信を行うことは画期的なことでした。平成17年8月には番組のスポンサーとして「支える会」を設立し、わが国の国益を守る立場から情報発信する橋頭堡として、爾来15年間、放送主体の変更を伴いながらも、毎日曜日に欠かすことなく放送を継続してまいりました。

また、毎年秋季に「定期総会・記念講演会・懇親会」や春季に「特別講演会・新会員歓迎会」を開催して、会員相互の親睦を深めるとともに、情報交換を行っている。

●産經新聞に意見広告を掲載

平成24年夏の福岡市中国公務員4千人採用問題では、「支える会」として産經新聞に意見広告を掲載し、特集番組を放送して広範な市民の支持を得て、計画の撤回を勝ち取ることができました。

福岡市長 高島宗一郎くん いいかげん 国を売るのはおやめなさい。

意見広告 毎週日曜日生放送 /10:00～12:30 http://touron.j-mate.net 8月12日(日)放送 スタジオ日本 日曜討論

●インターネット生放送番組「日曜討論」に進化

平成22年11月、「日曜討論」番組はFM放送局の廃局という試練に直面しました。しかし、これを機にインターネット（ユーストリーム）による放送を開始。アーカイブでの視聴も可能となり、世界中どこからでも、いつでも番組を視聴することができるようになりました。放送内容を収録したアーカイブは、真正保守の立場から重要な資料、真実の情報を視聴できるメディアライブラリー「番組図書館」として注目を集めました。平成28年11月20日の時点で、チャンネル登録者数2,323人、総視聴回数472,448回（1日平均604回）に達しました。

●Youtubeアカウント停止、独自ドメインでのアーカイブ配信を開始

平成26年10月1日からユーチューブで日曜討論番組の動画を公開してまいりましたが、平成29年1月12日、突如として「アカウント停止」の状態となり、生放送はもちろん日曜討論番組323本、特別報道番組49本の合計372本にも上るすべてのアーカイブが視聴できなくなりました。

アカウント復活に向けユーチュブ側にも事の次第を問

いただしましたが、要領を得ず、うやむやとしか思えない対応で、問題解決に向けた進展はありませんでした。

思うに今回の放送停止の背景には、南京攻略80年を記念し、平成29年元旦に放送した「南京大虐殺がなかった」ことを裏付ける決定的記録映画「戦線後方記録映画『南京』」（東宝映画文化部制作）の番組内での放送（世界初公開）が考えられます。中共の息のかかった何者かによる妨害活動としか断じ得ません。日本を悪者にし、貶める情報戦、歴史戦にわれわれは決して負ける訳にはまいりません。現在、別アカウントにて生放送のみユーチューブで放送を継続し、アーカイブは新たに独自ドメインを取得し配信しております。

●特別報道番組を配信

平成23年8月21日の「スタジオ日本日曜討論番組を支える会　定期総会・講演会」を「特別報道番組」の第1弾として、アーカイブ配信しています。

スタジオ日本では、私たちが国民の皆様に是非知って欲しいと願っているテーマの講演内容を取材し、広く世に発信しています。今日のマスコミやメディアでは決して報道されることのない催しを、インターネットを利用して世界中に配信してまいります。明日の日本人である私たちの子孫のために「誇りある国づくり運動」のメディア部門の一環として、日曜討論と同様、この番組も大いにご視聴ください。

●「産経新聞社西部本部と語る会」の実施

産経新聞は平成21年、九州・山口エリアでの現地印刷・本格発行を開始しましたが、「支える会」では「産経新聞を応援する会」との共催で、平成26年より毎年夏季に「産経新聞社西部本部と語る会」を開催、真正保守のマスメディアとして産経新聞を応援するとともに、意見交換を行っています。

●日本人講座の開設

平成26年4月、日本人講座が開講しました。どんな組織運営にも“コア”の部分の建設は欠かせません。日本人講座の主眼は私たち日本人が見失った「日本」を再発掘することであり、今を生きる日本人の務めとして、過去の日本人を甦らせ、その甦った日本人を通して、現在の日本のあり方を問い直して行くことです。明治人の視座獲得に心血を注いでこそ「戦後からの脱却」が図れます。

「日本人講座」は「スタジオ日本日曜討論」に出演していただき、言論戦の領域で行動を起こしてもらうための準備講座です。まさにこの講座は「日曜討論番組」を担っていただく伴走者育成のための師範講座です。

●番組URL「touron.live」の充実

番組ホームページはスマートフォンやタブレットでも視聴しやすいようにHPのリニューアルを行いました。生放送はもちろん、アーカイブで過去の放送や特別報道番組として貴重な講演も視聴可能となっています。またFacebookでの番組告知をはじめとするインターネットでの広報活動にも注力しております。

今後とも戦後閉ざされて久しい言語空間を国民の側に奪還するため、「誇りある国づくり運動」のメディア部門として、全力を尽くしますので皆様のご支援をお願い致します。

第11回

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

定期総会・記念講演会・懇親会

平成29年　9月2日（土）「スタジオ日本日曜討論番組を支える会」の第11回定期総会・記念講演会・懇親会が福岡市中央区のテルラホールで開催され、95名の特別会員（法人・個人）や正会員、番組会員の参加がありました。総会に先立ち、「顧問・相談役・世話人会」が天神テルラ6階の花万葉で開催され、13名の役員の皆様にご参集いただき、馬渕睦夫先生もご参加されて、番組の運営方針や今後の会の活動につき、ご確認いただくことができました。

定期総会では世話人の安倍輝彦氏の開会のあいさつの後、世話人を代表して小菅亥三郎が「14年の長きにわたってこの『日曜討論』番組を継続することができたのは、まずもって貴重な日曜日に手弁当で出演してくださる出演者の皆様であり、次にシナリオ作成の任に当たるライターの皆さんと放送スタッフの皆さん、そして『支える会』会員の皆さんが銃後の支えとして支援して下さっているからである。名もない地方のマイナーな放送事業であるが、原日本人の言語空間を国民の手に取り戻していくために共に戦ってまいりましょう」と、あいさつに立った。

続いて、本会顧問で北九州国際大学学長の西川京子氏と、同じく本会相談役で福岡県議会議員・九州不動産専門学院グループ同窓会・九栄会会長の松尾嘉三氏に祝辞を頂きました。その後、小菅亥三郎代表世話人が全会一致で議長に選任され議事を進行、世話人の柴崎一郎氏が平成28年度活動報告、また、副代表世話人の原田泰宏氏が平成29年度活動計画の発表を行った。続いて役員選任の報告があり、満場一致の拍手により全ての議事が承認され、筑紫野市議会議長、横尾秋洋氏の閉会の辞で総会は滞りなく終了しました。

続く記念講演会では、馬渕睦夫先生（元駐ウクライナ兼モルドバ大使）による「グローバリズムの終焉～激動の国際情勢を生き抜く知恵」と題する講演が行われました。3月の「特別講演会」に引き続き2回目のご登壇となった先生は、トランプ大統領が出てきてグローバリズム対ナショナリズムの戦い続いており、その根源は100年前のロシア革命までさかのぼらなければ分からないと述べられました。そして、ロシア革命はロシア人民の労働者の革命ではなく、ユダヤの革命であったと語られ、グローバリズムの正体が、共産主義であり、その背後にユダヤの陰謀が渦巻いていることを滔々と述べられて行かれた。また、「ナチスの虐殺よりもっと以前に、ユダヤは共産主義革命の名のもと、ジェノサイド（民族浄化）を行った。だからこそナチスはずっと悪者でなければならない。それはその虐殺を行った側が現在の歴史界やメディアを握っているからなのだ。」と指摘され、フェイクヒストリーを暴き、真実をわれわれは知っていかなければならない。そのためには20世紀最大の問題だったロシア革命の真実を知らなければ、その後の歴史の真実を永遠に知ることはできないと強調されました。

講演会終了後には、馬渕睦夫先生をお囲みして、年中無休で頑張っておられるコメンテーターやスタッフの労をねぎらい、恒例の懇親会が和やかな雰囲気の中、盛大に行なわれました。

なお、記念講演会は、特別報道番組として番組ホームページのアーカイブでご覧いただけます。
（https://touron.live）

第4回

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

特別講演会・新会員歓迎会

去る3月3日土曜日午後2時より、福岡市中央区渡辺通りのテルラホールにおいて、スタジオ日本　日曜討論番組を支える会・日本人講座主催の　「平成29年度　特別講演会・新会員歓迎会」が、77名の参加者を得て盛大に開催された。今回、第一部の特別講演会には、はるばる沖縄県石垣市の八重山日報編集長の仲新城誠先生にご出講いただき、「偏向の沖縄で第三の新聞を発行する」と題してご講演を頂いた。先生は、もともと文章を書くことが好きで、たまたま八重山日報の求人募集を見て記者になられたとのことです。当時は、ヤギの双子が生まれたとか、誰々さんの息子さんが有名大学に合格したとかと言った、のどかなニュースを書いておられたそうです。

しかし、そのような状況が一変したのが、アメリカ軍の石垣上陸に対する反米反基地活動家とその新聞報道だったと当時のことを回想されました。日米同盟で規定されていますが、沖縄有事の際の調査目的で米軍が石垣港に入港したことに反対して、反米活動家が港を人間の鎖で包囲して上陸を阻止するという事件がありました。当時の新聞はこれを米軍が「強行突破」と煽ったが、先生はこれは何かおかしい、私に言わせれば活動家の違法な「強行封鎖」で、沖縄の新聞報道の異常さを感じた出来事だったと先生は語られました。

沖縄では地元の情報が載った新聞を取ろうと思うと、実質的に「沖縄タイムス」か「琉球新報」の選択肢しかなく、この2紙は言わば赤旗の沖縄版で、基地反対派や左翼的活動家の意見しか載せない状況との事。仲新城先生はこの2紙の報道姿勢に疑問を感じ、両論併記、公平中立の立場で新聞を編集されています。もともと八重山日報は石垣市周辺の八重山諸島の地元紙でしたが、昨年4月に産經新聞と提携して、50年ぶりに沖縄本島で第三の新聞として発行に漕ぎ着けられたのです。

現在、沖縄では反基地活動家に担ぎ上げられた翁長知事が県政を掌握しており、このまま偏向した沖縄2紙のような報道状況が続けば、沖縄の安全保障に穴が開き、中国が影響力を高め、ひいては日本本土も危うい。今回、八重山日報の沖縄本島版の発行に繋がったのは、このような状況を憂うる沖縄の人々の支援があってのことです。今、沖縄タイムス・琉球新報の2紙は、八重山日報や産經新聞に敵対姿勢を見せ、誤報問題などで攻勢を掛けてきています。沖縄のマスコミ界は保革、激しく鍔迫り合いが繰り広げられている状況ですが、公正中立な第三の新聞と

して八重山日報が沖縄2紙に食い込んでいきたいと話をまとめられました。

その後、同じ沖縄の我那覇真子さんにご登壇いただき「特別アピール」として、沖縄での活動状況をお話しいただきました。

続いて仲新城先生もご参加になり、新会員歓迎会がおこなわれました。今年度は新しく会員となられた方々のうち5名の方がご参加になり、新会員の紹介や近況の報告など、会員相互の親睦が大いに深められた会合となりました。

仲新城誠先生の講演会や我那覇真子さんの特別アピールの模様は、「支える会」のホームページ（touron.live）に「特別報道番組」の「アーカイブ」に動画を掲載しておりますので、是非ご視聴ください。

日曜討論放送のあゆみ

シリーズ紹介

日本再発見

『食品・薬品・添加物の恐怖～GHQによる人口削減計画』

本篇第114弾　全6回
平成29年8月13日～9月24日

GHQは日本占領にあたり「復讐・改組・復活」なる基本原則をうち立て、それを実現するに当たり重点的施策と補助政策を遂行しました。前者は「武装解除・軍国主義の排除・工業生産力の破壊・中心勢力の解体・民主化」、後者は「スポーツの奨励・セックスの開放・映画の奨励」で構成されました。特に「3S政策」と呼ばれた後者は、大衆を娯楽に集中させて政治に関心を向けさせないという効果と、日々の労働の辛さを緩和する鎮痛剤の役割を持っていました。そして新聞やテレビやマスコミは、今なおその「支配システム」の呪縛から解放されていないのが現状です。

モンサント社は、ベトナム戦争でまき散らされた、強烈な発がん性・催奇性を持つダイオキシンの入った「枯れ葉剤」を製造していたメーカーで、現在は除草剤や殺虫剤など農薬を開発しながら、それに耐えうる遺伝子組み換え作物（GMO）の種子を販売しているわけです。GMO作物の多くは大豆とトウモロコシで、アメリカ人は食べずに家畜のエサにしています。モンサントの社内食堂では遺伝子組み換え食品の提供が禁止されています。しかし、日本では大豆は納豆にして食べるし、豆腐や醤油や味噌の原料にします。遺伝子組み換え作物を最も摂取させられるのは、日本人かもしれないのです。

GHQは日本人に対し、凄まじい恐怖感があり、二度と脅威とならないようにと考えました。そのためには、日本を徹底的に弱体化させ、二度とアメリカに歯向かわないよう弱い日本人をつくることでした。そして彼らのやってきたことが、日本に多大な悪影響を与え、今日に至るまでその痕跡は色濃く残り、それが知らないうちに「日本の常識」になっていったことが山ほどあることを私たちは知らなければなりません。

例えば、戦後アメリカは、援助物資という名目で日本へ小麦粉を供給し、牛乳と共にパン食を学校教育に導入しました。国民の栄養不足を理由にわが国も国策として「栄養のある」牛乳神話を作りました。「牛乳＝カルシウム摂取＝子供の成長に不可欠」というメディアを使った刷り込み活動で日本に牛乳文化を根付かせました。また、米国酪農協会が作った母子手帳をGHQが「予防接種」をきちんと管理するためとして牛乳とセットで導入されたなど驚きの一語です。現在、薬は毒薬、西洋医学での治療では何も治せないことが明るみにでてきています。しかし、いくら「危ない」医療に近づくな、といったところで日常的に摂取せざるを得ない食べ物や水を通じて毒を体内に蓄積し、肉体面、精神面共に「病人」にされてしまいます。その結果、繁殖能力も低下させられ、気力も生きがいも奪われかねないのです。“人口削減”という目的を果たすために、NWO(新世界秩序)を完成させようと目論む輩が、用意周到に描いてきたシナリオに沿って、日本という牧場を舞台にして、私たち“羊”を思いのままに演じさせる占領政策が今も進行中です。今回のシリーズでは戦後72年の今日に至るまで、民族の存亡に影響を残し続ける「悪魔の政策」について視聴者の皆様と考えてみたいと思います。

〈シリーズ〉

第1回　GHQ占領政策　平成29年8月13日放送
田口俊哉 / 平尾文洋・廣瀬知晴 / 中実柚菜 / なし

第2回　洋食文化の強要　平成29年8月20日放送
田口俊哉 / 久野貴子・木下修・柴崎一郎 / 中実柚菜 / なし

第3回　GHQと厚生省　平成29年9月　3日放送
田口俊哉 / 奈田明憲・福田章枝・平尾文洋 / 中実柚菜 / なし

第4回　東洋医学から西洋医学へ　平成29年9月10日放送
田口俊哉 / 平尾文洋・廣瀬知晴 / 中実柚菜 / なし

第5回　世界最高の添加物大国 日本　平成29年9月17日放送
田口俊哉 / 奈田明憲・髙橋幸久 / 中実柚菜 / なし

第6回　日本人の生活習慣病　平成29年9月24日放送
田口俊哉 / 木下修・廣瀬知晴・福田章枝 / 中実柚菜 / なし

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

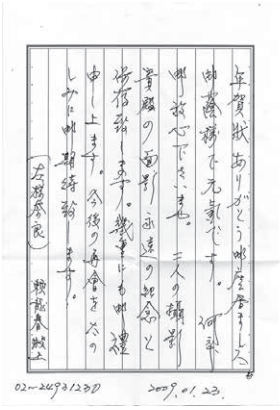
日本再発見

『原台湾人の日本語から読み取れる大和魂』

本篇第115弾　全6回
平成29年10月1日～11月5日

日本統治時代に日本語で育った台湾の人は、こぞって「戦前の日本の教育は素晴らしかった」と言われます。台湾の日本語世代の人は、日本語により大和魂をもった本当の日本人として教育され、成人しましたが、終戦後台湾を占領した國民党政権によって強制された北京語がどうしても理解できませんでした。彼らにとってそれは外国語であったことから感情を表現するレベルにまでは取り入れることが出来ず、思考する言語としては戦前の日本語が生き残っていったのです。そのおかげで、台湾では本物の日本語や大和魂が体現されています。一方、わが国では、日本語により自虐史観の植え付けがなされてきたため大和魂は悪者にされ、その魂を持った人に会うことは稀有になりました。

台湾での日本語教育は明治28年の台湾統治と同時に始まります。台湾は日本が経済的な収奪を行なう植民地ではなく、北海道や沖縄、樺太と同じ「新附の領土」であり、その臣民は民族こそ違え、日本国民同胞として遇するべきという考え方が根底にありました。それにはまず、日本人と台湾人が相互の言語を学んで、お互いを理解していくことからはじめ、台湾人の尊崇する文化・宗教を尊重することを方針としていました。その結果、明治28年から昭和20年までの日本統治50年の日本語教育によって、日本語は漢民族と原住民の共通語となり、全島のコミュニケーション言語になりました。日本語教育が台湾で深く浸透したことで、日本語は台湾人にとって、意思疎通の言葉だけではなく、物事を考える言語にもなっていました。しかし、戦後、國民党政府は戒厳令を敷き、日本語使用の禁止令を出し、日本語教育は暗黒期に入りました。その後、台湾の人々の民主化を求める声が大きくなり、昭和61年にようやく戒厳令が解除されました。また、昭和63年には蒋経國総統が死去し副総統の李登輝氏が総統になるという台湾史にとって画期的な出来事が起こりました。李登輝総統は「私は24歳まで日本人だった」と公言してはばからず、中学の新教科書『認識台湾』で日本統治時代について「日本語による基礎教育は台湾人が現代知識を吸収する手段となり、台湾の近代化を促進した」と評価しました。そして台湾では正式に日本語抑制の枷がはずされました。台湾の日本語世代の方々と交流を深めていくと、その日本語の美しさに驚きます。書簡のやり取りにも台湾人とは思えない、私たちの知る日本人以上の教養を感じます。今回のシリーズでは残り少なくなっている原台湾人の日本語世代の方々の戦前の美しい日本語や大和魂について考えてみたいと思います。



番組で紹介された原田泰宏氏宛てのお手紙（以下は事務局あてメールに一緒に添えられていた原田泰宏氏のコメントです。）私が日本語世代の方からいただいた、手紙と写真を送付しますので、よろしくお願いします。平成20年第10次慰霊訪問団に初めて参加した時、左営駅（高雄市）で高齢者に話しかけたら日本語が通じた日本語世代の人でした。名前は頼龍春さん。住所を聞いて年賀状をだした。その時の礼状がこの手紙。日本人の手紙と同じです。達筆ですね。さようならが漢字で書かれていて驚き、かつ台湾での新しい日本語の発見でした。

〈シリーズ〉

第1回	**原台湾人の日本語の源流を探る**	平成29年10月　1日放送
	原田泰宏 / 大山猛・福田章枝・平尾文洋 / 中実柚菜 / なし	
第2回	**日本語と大和ごころ**	平成29年10月　8日放送
	原田泰宏 / 木下修・久野貴子・武内智紀 / 中実柚菜 / なし	
第3回	**日本語世代の美しい日本語**	平成29年10月15日放送
	原田泰宏 / 久野貴子・平尾文洋 / 中実柚菜 / なし	
第4回	**原台湾人（日本人）のこころ**	平成29年10月22日放送
	原田泰宏 / 田中道夫・柴崎一郎 / 中実柚菜 / なし	
第5回	**繁体字と簡体字**	平成29年10月29日放送
	髙橋幸久 / 奈田明憲・福田章枝 / 中実柚菜 / なし	
第6回	**日台交流の書簡から見える日本人の心**	平成29年11月　5日放送
	原田泰宏 / 富原浩・久野貴子 / 中実柚菜 / なし	

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『江戸時代を掘り起こす～皇国史観で評価されず、唯物史観に歪められた265年』

本篇第116弾　全6回
平成29年11月12日～12月17日

藩校は江戸時代に諸藩が藩士の子弟の教育のために設けた藩の直轄学校です。教育の内容は漢学、特に儒学を主としましたが、幕末には国学、洋学、医学などを授けるものも増加し、また武芸をあわせ授けるものも多くなりました。明治維新当時の276藩のうち215藩が藩校を開設していたことがわかっています。明治維新後に制度改革を行なったものも多くありますが、廃藩置県により廃止されました。その後、これを母体とし、あるいはその伝統を継承して中学校（旧制）などが設立され、また地方の代表的な小学校となったものも多くあります。

学校で教わった歴史で江戸時代というと「士農工商」という身分制度にがんじがらめにされ、農民は重税に喘ぎ、代官や侍たちに一方的にいじめられるなど、汲々とした生活の中で自由もない暗黒の時代と教えられませんでしたか。実際に「水戸黄門」や「七人の侍」などの時代劇や小説の中での経済の担い手である農民たちの暮らしは、自らの収穫物である米も年貢で収奪され、満足に食べることさえできないうえ、五人組みの連座制で縛られ、惨めな存在として描かれていますが、本当にそうだったのでしょうか。これでは内戦や革命もなく265年もの長い間、どうして平和な時代が続いたのか説明がつきません。江戸時代のわが国は、極楽でも地獄でもないという意味では、ごく「普通の国」でした。どの時代にも為政者の誤ちはあります。しかし、その誤ちに焦点を当てるより、誤ってなかったことに注目する方がはるかに大切なことと思います。私たちは明治以来の長い期間に亙って江戸時代が一種の暗黒の時代だったように思い込まされてきました。明治維新を「日本の夜明け」と呼んだのも、江戸時代がまるで夜の暗黒の中にあったように思わせるためだったのではないでしょうか。何よりも、学校で使う日本史の教科書が、実際は平穏な時代が長く続いたにも拘らず、身分差別、斬り捨て御免、一揆と飢餓の時代のように描き扱ってきたため、そう思い込んでしまったのです。それは、歴史家が偏見にもとづく歴史観で江戸時代を見てきたからに過ぎません。しかし現実の歴史では、わが国は黒船来航を契機に明治維新を成し遂げました。そしてアジアで唯一、白人の植民地にもならず僅か30年前後の間に日清・日露の戦役に勝利するまでに国力を伸ばし、欧米列強に伍して世界の五大国に躍り出ました。それはこのような飛躍を可能にした人的、文化的、軍事的な経験の系譜、すなわち社会インフラともいえるひとつの文明的な統治の蓄積があったからに違いありません。徳川幕藩体制が完全に無くなった明治4年(1871)の廃藩置県から、わずか74年後の昭和20年(1945)には2発の原子爆弾投下という人類史上空前の悲惨な経験をしたばかりか、他国の軍隊に占領されるという歴史上はじめての屈辱を味わい、明治体制は崩壊しました。明治を作りあげた江戸人なら、もっと慎重だったかもしれません。しかし江戸時代生まれの人が減り、明治の富国強兵時代に育った人が主流になり、初心を忘れ《旧弊》や《因循姑息》という理由で古いやり方を破壊し、新しい欧米式の制度や方法にことごとく変えてしまったことも敗因のひとつと思います。今年は大政奉還の、また来年は明治維新150年の節目ですが、この間、私たちが本気になって江戸時代の先達の生き方に学ぼうとする姿勢は余りにも希薄でした。それは、偏向した歴史観による学校教育の結果です。逆に265年も平穏に続いた時代こそが、本当は振り返る価値があるのです。それは国家を平穏無事に治めるための叡智や工夫が随所に満ち満ちていたに相違ないからです。今回のシリーズでは虚心坦懐に真実の江戸時代を掘り起こし、どういう世の中であったのか、視聴者の皆様と一緒に考えて参りたいと思います。

〈シリーズ〉

第1回　徳川幕府の政治　平成29年11月12日放送
木下修 / 安倍輝彦・福田章枝 / 中実柚菜 / なし

第2回　徳川幕府の対外政策　平成29年11月19日放送
木下修 / 永濱浩之・吉岡史高 / 中実柚菜 / なし

第3回　徳川幕府の宗教政策　平成29年11月26日放送
木下修 / 柴崎一郎・今嶋泰之・井手良明 / 中実柚菜 / なし

第4回　江戸の行政　平成29年12月　3日放送
木下修 / 田口俊哉・廣瀬知晴・湯下雅俊 / 中実柚菜 / なし

第5回　江戸の産業とくらし　平成29年12月10日放送
木下修 / 柴崎一郎・奈田明憲 / 中実柚菜 / なし

第6回　外国人がみた江戸時代の日本人　平成29年12月17日放送
木下修 / 奈田明憲・平尾文洋・髙橋幸久 / 中実柚菜 / なし

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『終戦73年 大日本帝国の復権 其の六 江戸時代から明治の国学者たち』

本篇第117弾　全6回
平成30年1月14日～2月18日

画像は本居宣長四十四歳自画自賛像。本居宣長は、江戸時代の国学者・文献学者・医師です。自宅の鈴屋に門人を集め講義をしたことから鈴屋大人（すずのやのうし）と呼ばれました。契沖の文献考証と師・賀茂真淵の古道説を継承し、国学の発展に多大な貢献をしたことで知られます。荷田春満、賀茂真淵、平田篤胤とともに「国学の四大人」の一人とされています。

「国学」とは、江戸時代の中期に興った学問を指し、そもそもわが国の古典の研究をその出発点としています。「万葉集」「古今集」「日本書紀」等を分析した注釈書は、当時の人たちに人気を博しました。荷田春満（かだのあずままろ）・賀茂真淵（かものまぶち）・本居宣長（もとおりのりなが）・平田篤胤（ひらたあつたね）は、国学の四大人（よはしらのうし）とされ、その普及に大きな役割を果たしました。中でも本居宣長の著した古事記研究の集大成「古事記伝」は、わが国の肇国の理念と皇道の正当性を明らかにしました。幕末、草莽の志士たちは「古事記伝」によって、皇祖神天照大御神の御霊を引継ぎし天皇と、八百万の神々の「分けみたま」たる臣民との間の、深い信頼と絆を自覚するに至りました。そして、差し迫った危機にも気付かず惰眠をむさぼり、欧米列強の恫喝に対して弱腰かつ屈辱的な対応に終始していた徳川幕府には、もはや国家を統治する能力や正当性のないことを悟ったのです。こうして国家と臣民の在るべき姿に気付き、民族意識に目覚めた志士たちは、一気に倒幕、王政復古へと突き進んでいきました。国学こそが明治維新の原動力であり、「すべては古事記から始まった」と言っても過言ではありません。現在、わが国において「古事記」や「武士道」といった伝統的な日本精神に注目が集まっていますが、これは単なる偶然ではなく、日本精神の象徴こそが、日の丸であり、君が代なのです。八百万の神々と天皇と臣民が、互いを尊重し、心を一つにして国づくりに励み、共に生きる喜びと希望に満ちた古（いにしへ）の日本こそが私たちの還るべき場所であり、還ることによって、私たち日本人は本来の自分を取り戻すことができるのです。本来の自分に還った日本人は、もはや、何も恐れるものはありません。如何なる国難に見舞われようとも、私たちは力を合わせてこれを克服することが出来るでしょう。

わが国を取り巻く現在の状況の中で、右往左往している自公連立政権はかつての江戸幕府末期のようでもあります。このままではやがて「日本」は消え行く運命にあります。今回のシリーズでは、視聴者の皆様と共に「江戸から明治の国学者たち」の国家意識の醸成を学びながら、改めて「日本」を意識し、国家のあり方を考えてみたいと思います。

〈シリーズ〉

第1回　古学から国学へ ～ 下河辺長流と契沖　平成30年1月14日放送
木村秀人 / 安倍輝彦・福田章枝 / 中実柚菜 / なし

第2回　国学の体系化 ～ 荷田春満と賀茂真淵　平成30年1月21日放送
田口俊哉 / 大山猛・永濱浩之 / 中実柚菜 / なし

第3回　国学の国家意識 ～ 湯浅常山と谷川士清　平成30年1月28日放送
髙橋幸久 / 富原浩・平尾文洋 / 中実柚菜 / なし

第4回　封建階級制の超越 ～ 本居宣長と村田春海　平成30年2月 4日放送
柴崎一郎 / 田中道夫・田口俊哉・廣瀬知晴 / 中実柚菜 / なし

第5回　政治的服従の理論 ～ 本居大平と伴信友　平成30年2月11日放送
髙橋幸久 / 奈田明憲・今嶋泰之 / 中実柚菜 / なし

第6回　幕藩体制の危機 ～ 藤田幽谷と平田篤胤　平成30年2月18日放送
木村秀人 / 平尾文洋・久野貴子 / 中実柚菜 / なし

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『日台の魂の交流／南京攻略80年 ～原台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅』

本篇第118弾　全4回
平成30年2月25日～4月1日

第19次台湾慰霊訪問の旅は、11月22日（水）から26日（日）までの4泊5日の日程で小中学生を含む過去最大61名が参加しました。

平成11年から開始された「海の彼方のニッポンを訪ねて」の旅も第19次を数えるまでになりました。今日では(1)大東亜戦争で散華された台湾人同胞3万3千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列、(2)領台時代の魂を継承する現地台湾人との家族交流・兄弟交流、(3)御祭神他が日本統治時代に淵源を有するところへの参拝や訪問、(4)中華民國外交部をはじめとする各地の公的機関他への表敬訪問という4つの目的をもつまでに至り、日台の魂の交流事業として国際的に認知されるまでになりました。

第19次訪問の旅は、11月22日(水)から26日(土)までの4泊5日の日程で行なわれました。今回の大きな特徴は、(1)台湾日本関係協会主催の歓迎夕食会、台日文化経済協会主催による歓迎昼食会等、台湾を代表する公的機関のご歓待を受けたこと、(2)バシー海峡に眠る25万将兵に慰霊の誠を捧げるため、台湾最南端の鵝鑾鼻岬で献花式、潮音寺で慰霊式を行えたこと、(3)元警察官の堀純生氏、根之木昭憲氏、台湾軍司令官本間雅晴中将の縁戚の本間潤子氏をはじめ全国各地からの団員に沖縄支部6人と小中学生2人の合流を含め過去最大61人、大型バス2台の規模で、年齢、動機や使命感で多様性溢れる訪問団を編成できたこと等が挙げられ、画期的な旅となりました。

今回のシリーズでは、第19次訪問団の参加者や支援者の皆様にご登場いただき、写真や感想文を交えながら日台の交流事業として国際的に認知されるようになった日華(台)親善友好慰霊訪問団の台湾での活動を紹介します。

また、今年は明治維新150年を迎えるとともに、慰霊訪問団結成20年の節目の年に当たります。日本と台湾のこれからの関係、その中で慰霊訪問団の果たすべき役割等を考えて参りたいと思います。

〈シリーズ〉

第1回	**出発式、海明禅寺、台湾日本関係協会による歓迎夕食会(第1日目) 富安宮、鹽水國民小學、飛虎将軍廟、保安堂、台湾支部長ご夫妻による歓迎夕食会(第2日目)**	平成30年2月25日放送
	原田泰宏 / 安倍輝彦・久野貴子 / 中実柚菜 / なし	
第2回	**鵝鑾鼻岬、潮音寺、東龍宮、慰霊団主催交歓夕食会（第3日目）**	平成30年3月18日放送
	大山猛 / 湯下雅俊・柴崎一郎 / 中実柚菜 / なし	
第3回	**宝覚寺、日本人墓地、霊安故郷碑、台灣台日海交會による歓迎夕食会、濟化宮、 黄文雄先生による歓迎夕食会（第4日目）**	平成30年3月25日放送
	田中道夫 / 永濱浩之・福田章枝 / 中実柚菜 / なし	
第4回	**芝山公園、台日文化経済協会による歓迎昼食会、解散式（第5日目）～第19次台湾 慰霊訪問の旅を終えて**	平成30年4月　1日放送
	小菅亥三郎 / 富原浩・湯下雅俊 / 中実柚菜 / なし	

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『再生可能エネルギーのまやかし』

本篇第119弾　全2回
平成30年3月4日～3月11日

「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」発表記者会見で、質問に答える小泉純一郎元首相（右端）。左端は細川護熙元首相＝1月10日午後1時33分、東京・永田町の衆院第1議員会館、岩下毅撮影（朝日新聞デジタルより）

小泉元首相や小宮山元東大総長は本の中で「再生可能エネルギーで日本の電力は賄える」と主張していますが、全くの事実誤認であり、日本国を滅亡に追いやる妄言です。蓄電技術の進歩で家庭で使用する電力は賄えることのできる時代はもうすぐ来ると思いますが、再生エネルギーはそこが限界です。

東京で動いている電車を動かす電力は？

無数にあるビルのエレベーターで使用する電力は？

その空調を支える電力は？

また日本の経済を支える産業の電力は？

こういうことを考えると不安定な再生可能エネルギーでは日本は支えられないのです。風、太陽光など自然エネルギーは無限に存在するように感じられますが、その濃度が薄いためにそれを集め、濃いエネルギーにしなければなりません。まだ電力の消費が少なかった20世紀初めにこの技術が開発され、電力の需要と共に技術が進歩すればまだよかったのでしょうが、これだけ巨大な電力需要を濃度の薄い自然エネルギーで賄うことは不可能なのです。

先日ある製造業者とお話をしていると、もし停電が起こったら、製造中の製品が中途半端になってしまうために、一回の停電で数百万単位の損失が出ると言われていました。たった一つの会社でこの金額ですから、広い地域で考えると膨大なロスになるのです。それを防ぐにも機軸のエネルギーとして安定した電力と電圧を提供するために原子力発電が必要になってきます。

今回のシリーズでは、北海道大学名誉教授 奈良林直先生と、九州大学教授 出光一哉先生にご出演いただき、再生可能エネルギーでは日本の電力は賄えないことを中心に、視聴者の皆様と考えてまいります。

新世代原子炉安全技術の第1人者で、北海道大学教授（原子炉工学）の奈良林直先生

放射性廃棄物処理・処分や核燃料の開発に関する研究を行っておられる九州大学教授　出光一哉先生

〈シリーズ〉

第1回　再生エネルギーのウソ　平成30年3月 4日放送
井上政典 / 奈良林直 / 中実柚菜 / なし

第2回　再生処理は問題ない　平成30年3月11日放送
井上政典 / 出光一哉 / 中実柚菜 / なし

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『地元神社消滅の危機～地域共同体を守る戦い』

本篇第120弾　全6回
平成30年4月8日～5月13日

福岡市南区にある高宮八幡宮はご祭神に玉依姫命、応神天皇、神功皇后を祀る氏神様です。千年の歴史があり、高宮駅の東側には創建の由来になっている磐瀬の宮の地名が残っています。12世紀末には高宮・平尾・野間の氏神、那珂郡の鎮守となっていました。ヤマモモの保存樹を始めとする木々が鬱蒼と繁り、その境内の森には豊穣の神の埴安神と太宰府天満宮の天神社坐神・菅原神が末社として鎮座しています。

祭りや初詣など、日本人の生活に深く関わってきた地域の神社が、氏子の減少で存続できなくなるケースが相次いでいます。一方で、宮司の後継者不足も年々深刻化し、ひとりの宮司が多くの神社をかけもちすることもしばしばです。25年後には全国で4割が消滅する恐れがあるとまで言われています。

これまで神社の存立を支えてきた氏子制度において、その構成要因たる人口の減少が収束しないという状況では、必然的にそれに拠ってきた神社も消滅することは自明ですが、都会の人口密集地でさえ、神社消滅の危機が迫っているのです。

かつて神社は地域コミュニティの「こころのよりどころ」として存在していました。しかし、都会では、そのような伝統的な地域コミュニティを「古い公共」として位置づけたうえで、ボランティアやNPOといった民間セクターが主導する仕組みを「新しい公共」として奨励する発想が浸透しています。そのような中で、かつての共同体意識は薄れ、崩壊し、大都市では「無縁社会」が拡がっているのが現状です。

しかし、そうしたコミュニティの崩壊を身近に感じつつ、今まさに「絆」に関心が寄せられているというのは、東日本大震災を契機として「家族の絆」や「地域の絆」への希求が高まっていると見てよいでしょう。

祭りを通し、自然の恵みと祖先が脈々とつないでくれた命に感謝しながら、地域での人々のつながりを育んできた場所が神社でした。自然と、祖先と、人々をつなぐ交流の場所？それが神社なのです。家が建てられ、道路ができて、インフラが整うから新しい街がはじまるのではありません。その土地を守って下さっている鎮守の森の神様とのかかわり方や、ご先祖様とのつながり方こそが、地域のコミュニティにとって重要なことなのではないでしょうか。

今回のシリーズでは、現在も「伝統的な地域共同体を守る戦い」をくり広げられている皆様のご意見を伺いながら、地域コミュニティにとって何が「こころのよりどころ」なのかという日本全体の課題について考えてまいります。

〈シリーズ〉

第1回	**日本民族の魂に宿る神々**	平成30年4月　8日放送
	原田泰宏 / 古賀靖啓・溝上明・久野貴子 / 中実柚菜 / なし	
第2回	**海の神・山の神・町の神**	平成30年4月15日放送
	木下修 / 久野貴子・堺達也 / 中実柚菜 / なし	
第3回	**明治維新前の神社と神仏習合**	平成30年4月22日放送
	柴崎一郎 / 古賀靖啓・下石原正子 / 中実柚菜 / なし	
第4回	**明治の神社の国家管理**	平成30年4月29日放送
	髙橋幸久 / 古賀靖啓・福田章枝 / 中実柚菜 / なし	
第5回	**神道指令の精神を受け継ぐ日本国憲法**	平成30年5月　6日放送
	久野貴子 / 古賀靖啓・堺達也・古賀万美子 / 中実柚菜 / なし	
第6回	**地元神社消滅の危機―地域共同体を守る戦い**	平成30年5月13日放送
	田口俊哉 / 古賀靖啓・甲斐久幸・塩屋真人 / 中実柚菜 / なし	

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『戦艦大和からのメッセージ』

本篇第121弾　全4回
平成30年5月20日～6月10日

呉市の大和ミュージアムに台湾出身の帝國海軍少尉浅羽満夫の手記である「戦艦大和と私」が陳列されています。今回、ミュージアム図書室のご厚意で、手記の全文を拝読することが出来ました。お蔭様で、昭和20年4月7日特攻出撃した戦艦大和の最後の姿を窺うことが出来、特に、艦橋における部下の命を如何に温存するかに苦慮した長官達の人間性に感銘を受けました。

何故、大和にこれだけ人間性溢れる長官達が存在したかを理解するため、海軍兵学校を始め、呉、横須賀、舞鶴、佐世保に足を運び、資料を探し、帝國海軍創設当初の思想を一から勉強させて頂きました。

呉市の大和ミュージアムに陳列されている台湾出身の帝國海軍少尉浅羽満夫の手記「戦艦大和と私」。昭和20年4月7日特攻出撃した戦艦大和の最後の姿を窺うことが出来ます。

明治6年、帝國海軍は当時最強の海軍を学ぶため、英国からア―チボールド・ルシアス・ダグラス海軍少佐らを招聘し、英語、数学と実地訓練に重点を置く教育方針を打ち出しました。

明治26年、海軍大臣官房主事山本権兵衛大佐が立案し、派閥解消のため、海軍兵学校出身者を重要ポストに起用しました。この改革こそが2年後の日清戦争の決定的勝因に繋がったと思います。
昭和17年から昭和19年まで、海軍兵学校の校長であった井上成美中将は、昭和17年入校の74期生定員1,028名に対して、昭和18年12月入校の75期生定員を3,480名に増やしました。更に76期と77期の採用試験は昭和19年7月、同時に行われ7,300余名が採用予定者と決定しました。これは敗戦色が濃厚になってきた時、密かに戦後復興の頭脳を集め、英語、数学を中心とした教育を敢行した奇策ではなかったのでしょうか。

孫子曰く、「勝兵はまず勝ちてしかるのちに戦いを求め、敗兵はまず戦いてしかるのちに勝ちを求む」
日清戦争の2年前、人事改革により強い海軍を作った日本、大東亜戦争終戦の2年前、次期経済戦の人材一萬余名を確保した日本、これこそ日本の強さの秘密であり、我々が学ぶべき先人の英知であると考えます。

73年前の4月7日午前6時頃、大隅海峡を通過した戦艦大和の乗組員達はどのようなご心境で、この本土最後の富士――開聞岳を仰ぎ見たのでしょうか？ また、開聞岳はどのようなお気持ちで、特攻出撃の大和を見送ったのでしょうか？ 当時とほぼ同様の気象条件の中、あの最後の激戦とほぼ同じ時間帯に開聞岳に登りました。後を追うわけにはいきませんが、せめてその場の雰囲気を体感したい。そして、紺碧の空と海の間に、この国のあるべき姿を再考したい。只々、そんな思いでした。

今回のシリーズでは、この思いをお伝えし、視聴者の皆様と共にこの国のあるべき姿を考えて参りたいと思います。

〈シリーズ〉

第1回	**帝國海軍少尉浅羽満夫の手記 ～ 戦艦大和と私 その1** **帝國海軍は何故強い ～ 尊王攘夷・萬民平等**	平成30年5月20日放送
	木下修 / 柳原憲一・永濱浩之・柴崎一郎 / 中実柚菜 / なし	
第2回	**帝國海軍少尉浅羽満夫の手記 ～ 戦艦大和と私 その2** **帝國海軍は何故強い ～ 本物志向・徹底学習**	平成30年5月27日放送
	大山猛 / 柳原憲一・福田章枝 / 中実柚菜 / なし	
第3回	**帝國海軍少尉浅羽満夫の手記 ～ 戦艦大和と私 その3** **帝國海軍は何故強い ～ 生命重視・長期戦略**	平成30年6月　3日放送
	原田泰宏 / 柳原憲一・久野貴子 / 中実柚菜 / なし	
第4回	**帝國海軍少尉浅羽満夫の手記 ～ 戦艦大和と私 その4** **「戦後」から学ぶべきこと**	平成30年6月10日放送
	髙橋幸久 / 柳原憲一・木村秀人 / 中実柚菜 / なし	

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『婦人の復権～家庭の問題を考える』

本篇第122弾　全2回
平成30年6月24日～7月1日

わが国の大きな課題に「少子化」があります。日本人の地域社会が「産めよ増やせよ」のスローガンを堂々と掲げることができる健康さを取り戻さない限り、他のすべての条件が如何に整おうと結局は灰燼に帰します。最も大切な「公務」は「日本人の出産と子育て」ではないでしょうか。子供が欲しくても出来ない人、また結婚のご縁がなく子供に巡り合えない人、そういう人たちのためにも可能なご夫婦は子沢山になっていただきたい。

かつて、アメリカの未来学者アルビン・トフラーは「人類に重大な危機が到来するならば、人々が家庭本来の尊い意義を喪失し、それに由来して家庭が崩壊してしまう時であろう」と予言しました。まさしく今、家庭の崩壊が急速に拡まっています。そうなった要因はさまざま数え上げられるでしょうが、そのひとつはテレビの普及ではないでしょうか。現代日本人の大半は、暇さえあればテレビをつける習慣を有しています。

テレビを見ることによって、共通認識を形成するという考え方もありますが、そういう効果は僅かであり、テレビによる弊害は計り知れないと言わざるを得ません。テレビは知性を破壊し、精神の死を導く危険物なのです。

テレビは家庭や家族との関係を崩してきました。テレビという異物の無断侵入という状態を常に作ることによって、食事という家庭の大切な時間における家族との会話を邪魔し、時にその関係を乱してしまいます。どんな事情があっても、暇つぶしの方便として使ってはいけません。家庭内に何を入れるか入れないか、家長が決めないで誰が決めるのでしょうか。

テレビを自分の意志でコントロールできるかのように思っていても、実際には流れのままに見てしまうため、とりわけ耐性のない子供の場合、予想外のものを見せられたり、ショックを受けたり、変な記憶を植え付けられたり、くだらぬ発想を刷り込まれたりするので大変危険なのです。コマーシャルを筆頭に、人間の欲望を刺激し、謙遜・質素・節制・清潔などの徳義を害します。

昭和の理想的家庭像にはテレビの姿はありません。そういう意味からもテレビを捨てた「家庭の強化」、「家庭の復活」こそが幸福を招く鍵であると言っても過言ではありません。その家庭が幸福になるためには「母親の心のあり方」「婦人としての復権」こそが大切だと思います。

今回のシリーズでは、夫を尊敬し、家族に愛を与え続ける母親の役割を語って頂き、視聴者の皆さまと共に、さまざまな家庭の問題を考えて参りたいと思います。

〈シリーズ〉

第1回　母親と子どもの関係　平成30年6月24日放送

廣瀬知晴 / 福田章枝・山下あけみ・田口俊哉 / 中実柚菜 / なし

第2回　家庭における婦人の立場　平成30年7月　1日放送

廣瀬知晴 / 田口俊哉・楠木希望 / 中実柚菜 / なし

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『郷土から消された歴史～落城・岩屋城の戦い』

本篇第123弾　全6回
平成30年7月8日～8月12日

「拉孟（らもう）において、騰越（とうえつ）において、日本軍の善戦健闘に比べてわが軍の戦績がどんなに見劣りするか。予は甚だ遺憾に堪えない」

昭和19年、日本軍と戦っていた中国・国民党の蒋介石は全軍にこんな訓示をしました。蒋介石が称えた日本軍こそ、九州出身者で構成された第18師団（通称菊兵団）と第56師団（通称龍兵団）でした。中国・ビルマ国境において、拠点を守り、わずか数百から数千の陣容で、万を越す敵兵を4ヶ月にわたって釘付けにしました。

紹運が討ち死にした岩屋城甲の丸跡には、家臣の子孫たちによって建立された「嗚呼壮烈岩屋城址」という石碑があり、現在でも彼と彼の家臣763名の命日である7月27日には、縁者によって追悼供養が営まれています。天正14年（西暦1586年）、薩摩の島津氏が大友氏を滅ぼすべく、岩屋城と宝満城がある大宰府へ北上。紹運は、岩屋城で籠城しての徹底抗戦を決意しました。5万の敵に対し紹運以下763名は、2週間におよぶ戦いの後、全員が玉砕。髙橋紹運、享年39歳。「屍をば　岩屋の苔に埋めてぞ　雲井の空に　名をとどむべき」の辞世を残しています。

なぜ九州の軍隊は強いのか。その理由のひとつが、国防意識です。古来、九州は日本の防衛の最前線でした。古代は「防人」、中世は「元寇」。九州には、日本の平和のために戦ってきた武人の誇りがあります。大陸や朝鮮半島からの脅威に絶え間なくさらされてきたため、必然的に培われた防衛意識が将兵を鍛えたのです。二つ目は教育です。その強さの源泉には、戦国時代から江戸時代に培われた藩校教育をはじめ、その土地ならではの「武士道」があります。朝鮮出兵で獅子奮迅の活躍をした加藤清正、立花宗茂や島津軍をはじめ、福岡黒田藩、細川家と連なる肥後藩など雄藩が多くあります。「士は節義を嗜み申すべく候」で始まり「上に諂（へつら）わず、下を侮らず・・」と幼少から叩き込まれました。そうした武士道教育の伝統と文化が九州武士を形成していったのです。

今回は、豊臣秀吉の天下統一に関わり深い太宰府の四王寺山にある岩屋城で、天正14年（1586）、4万5千の島津軍を相手に14日間にわたる攻防を展開、763人全員が玉砕という苛烈な戦いをした髙橋紹運公の生涯を通して、皇土意識の醸成と九州武士の誇りについて考えてみたいと思います。

戦後73年も封印されてきた地元史をひも解くことにより、先人たちの公（おおやけ）に殉じる勇気ある生き方を知り、その死生観にふれることにより、学校教育から消された「教育敕語」や「軍人敕諭」「戦陣訓」の精神に、私たちは新鮮でより大きな発見をするに違いありません。

〈シリーズ〉

第1回　日本人の土地意識の変遷　平成30年7月　8日放送
柴崎一郎 / 木下修・福田章枝 / 中実柚菜 / なし

第2回　元寇と国防意識の醸成　平成30年7月15日放送
原田泰宏 / 田口俊哉・永濱浩之 / 中実柚菜 / なし

第3回　国防最前線としての筑紫の国　平成30年7月22日放送
柴崎一郎 / 安倍輝彦・田口俊哉・福田章枝 / 中実柚菜 / なし

第4回　立花道雪と髙橋紹運の左遷の美学　平成30年7月29日放送
髙橋幸久 / 奈田明憲・原田泰宏 / 中実柚菜 / なし

第5回　髙橋紹運公はなぜ岩屋城で戦ったのか　平成30年8月　5日放送
柴崎一郎 / 久野貴子・池田　宏・田口俊哉 / 中実柚菜 / なし

第6回　皇土自衛の先駆け～岩屋城の戦いの功労　平成30年8月12日放送
柴崎一郎 / 富原　浩・廣瀬知晴・後藤　鎮 / 中実柚菜 / なし

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

特　別　番　組

施光恒先生に聞く 道州制構想の落とし穴

周年篇 第13弾 平成29年8月27日放送

出演者：小菅亥三郎 / 施光恒・田口俊哉・久野貴子 / 中実柚菜 / なし

私たちには都道府県という区分は、すっかり定着し親しまれていますが、これをなくそうという声が一部で非常に強くあります。いわゆる「道州制」です。しかし、道州制はホントに必要な改革なのでしょうか。

道州制構想が実現すれば、税収などの財源が地方に移管されます。それに伴って、地方交付税などの地域格差をなくすための予算が廃止されます。そうなると北海道、東北、北信越、中国、四国、九州などは州の財政が逼迫する恐れがあります。地方交付税がなくなり、国レベルの大規模な経済政策や公共事業などの景気刺激策も期待できなくなれば、地方経済は間違いなく落ち込みます。そうなると、「貧すれば鈍する」「溺れるものは藁をもつかむ」で、安全保障上の危険性には目をつむり、各州は中国、ロシア、韓国などの近隣諸国との連携を深めようとするでしょう。近隣諸国からの投資や観光客、ひいては移住者などを少々無茶しても呼び込んでくるようになるのではないでしょうか。政府が、国レベルの経済政策を打たなくなり、地方を切り捨て、地域間格差是正のための手立ても行なわなくなれば、その分各州は、外需に頼ろうとします。道州制の下では、結局、各州の経済は外国にどっぷり依存するようになるわけです。投資を呼び込むための政治的な「規制緩和」として、州限定だとしても労働ビザや永住権を大幅に取得しやすくしたり、外国人地方参政権を認めたりする州もでてくるでしょう。各州間での　その手の規制緩和競争が行なわれる可能性も否定できません。危険極まりないことです。「州」になろうと思っていたら、いつのまにか中国の一つの「省」になっていた、なんてことになったら笑うに笑えません。「道州制構想の落とし穴」について視聴者の皆様と考えてみたいと思います。

今年1年を振り返って

年末年始篇 第25弾 平成29年12月24日放送

出演者：三瀬博巳 / 大山猛・福田章枝 / 中実柚菜 / なし

戦後教育の名のもとに72年も続いた「人権教育」「低脳教育」「我儘教育」で国を護る気概どころか自分自身さえ守れない日本人が続々と増えています。長年の「堕民政策」のツケといっていいでしょう。その結果、世界で最大最強の反日国になり下がってしまったわが国ですが、これをたて直すのは容易ではありません。しかし、これをやらずしては未来図も描けないのが偽らざる実情です。そしてこの作業は私たち日本人が今やらずしてどこのどなたもやってはくれません。本日は今年・平成29年を振り返り、主なニュースの中から取り上げ、リスナーの皆様と討論したいと思います。

第19次台湾慰霊訪問の旅を終えて

年末年始篇 第26弾 平成29年12月31日放送

出演者：小菅亥三郎 / 田中道夫・大山猛・田口俊哉・福田章枝 / 中実柚菜 / なし

平成11年から開始された「海の彼方のニッポンを訪ねて」の旅も第19次を数えるまでになりました。第19次訪問の旅は、11月22日（水）から26日（土）までの4泊5日の日程で行なわれました。

特　別　番　組

今回は全国各地から過去最大61人、大型バス2台の規模で、年齢、動機や使命感で多様性溢れる訪問団を編成、画期的な旅となりました。今回の放送では、現地での写真や団員の感想文等を交えながら日台の交流事業として国際的に認知されるまでになった日華(台)親善友好慰霊訪問団の台湾での活動等を紹介しながら、これまでの19次に亘る慰霊訪問の旅について振り返ってみたいと思います。また明治維新150年を迎える来年・平成30年は慰霊団結成20周年にあたるため、日本と台湾のこれからの関係、その中で慰霊訪問団の果たすべき役割等を考えて参りたいと思います。

明治維新150年に思う

年末年始篇 第27弾 平成30年1月7日放送

出演者：小菅亥三郎 / 原田泰宏・奈田明憲・平尾文洋・木下修 / 中実柚菜 / なし

今年は平成30年です。第125代にあたる今上陛下の平成の御世もあと16ヶ月を切るまでになりました。
さて、わが国が世界に誇る最大のものは一体何でしょうか。それは万世一系の皇統以外ありません。「天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」とは明治23年10月30日に渙発された教育敕語の一節ですが、私たち日本人は天皇の赤子として、悠久の昔より天皇を中心とする一大家族国家を形成してきました。そして、その形が国民に周く顕現されたのが明治でした。しかし、現在の状況を省みるに甚だ心もとない気がするのは私たちだけでしょうか。その第1は皇統の継続に対する不安です。今こそ女性天皇8人10代の苦難の時に学ぶべきではないでしょうか。その次は国の防人、すなわち現代の「大伴物部の兵」(軍人敕諭)たる国軍の位置づけです。緊急を要します。第3は国土保持の問題です。明治天皇は憲法発布にあたり御先祖様に「皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ」(告文)と報告されています。

戦後の風潮といえばそれまでですが、人権ばかりが取り上げられ、国権が一顧だにされない世相に寒気がいたします。本日は明治維新150年の節目にあたり、平成30年の私たち国民の幸福とは一体どのような土台の上に築かれているのかを取り上げていってみたいと思います。

明治維新の精神～領台50年と戦後70年の台湾の歩み

周年篇 第14弾 平成30年6月17日放送

出演者：木下修 / 黄文雄・富原浩・廣瀬知晴 / 中実柚菜 / 五郎丸浩

日華(台)親善友好慰霊訪問団では、台湾への理解を深め日台両国の友好関係を強固なものにする目的で、平成15年より毎年台湾問題に関する講演会を開催して参りました。

明治維新150年の今年は、6月10日(日)にソラリア西鉄ホテル（福岡市中央区）を会場に「第16回台湾特別講演会」が開催されました。第1部では、黄文雄先（文明史家/和漢両棲ノンフィクション作家）を講師に『明治維新の精神～領台50年と戦後70年の台湾の歩み』と題して基調講演を、また第2部では、『明治日本の拡散～私たちの学ぶべきこと』のタイトルで、黄文雄先生、施光恒先生（九州大学大学院准教授）、柳原憲一先生（西日本台湾学友会元会長）によるパネルディスカッションが行なわれました。

今回は改めて黄文雄先生に「領台50年と戦後70年の台湾の歩み」の基調講演ついてお話を伺い、講演会にご参加出来なかった皆様、ならびに全国の皆様とともに、私たちは明治維新150年に何を学び、台湾との関係をいかに構築してゆくべきかを考えて参りたいと思います。

スタジオ日本日曜討論
放送のあゆみ
アーカイブ

平成15年（2003）

10月　5日　『男女共同参画を考える』本篇1（H15.10.5～11.9全6回）
11月16日　『歴史教育を考える』本篇2（H15.11.16～12.21全6回）
12月28日　『台湾前総統李登輝先生とお会いして』年末年始篇1

平成16年（2004）

1月　4日　『日曜討論を振り返って』年末年始篇2
1月11日　『日本の建国を考える』本篇3（H16.1.11～2.15全6回）
2月22日　『海の彼方のニッポン“台湾”を訪ねて』本篇4（H16.2.22～3.28全6回）
4月　4日　『日本の国境線を考える』本篇5（H16.4.4～5.9全6回）
5月16日　『近くて遠い国・韓国』本篇6（H16.5.16～6.20全6回）
6月27日　『社会の幸福』本篇7（H16.6.27、H17.2.20～3.27全6回）
7月　4日　『活躍する自衛隊』本篇8（H16.7.4～8.8全6回）
8月15日　『愛は家庭から』本篇9（H16.8.15～9.19全6回）
9月26日　『真の日中友好を考える①（日中再考～似て非なる隣人）』周年篇1
10月　3日　『靖國神社』本篇10（H16.10.3～11.7全6回）
11月14日　『軍隊体験』本篇11（H16.11.14～12.19全6回）
12月26日　『慰霊は日台の魂の交流』年末年始篇3

平成17年（2005）

1月　2日　『台湾からのメッセージ』年末年始篇4
1月　9日　『家族の絆』本篇12（H17.1.9～2.20全6回）
3月20日　『時事問題／竹島問題を考える』特別篇1
4月　3日　『中学歴史教科書』本篇13（H17.4.3～5.8全6回）
5月15日　『日本の誇り自衛隊』本篇14（H17.5.15～6.27全6回）
5月29日　『時事問題／"百人斬り"は冤罪だ』特別篇2
7月　3日　『真の日中友好を考える②（反日中国に如何に対応すべきか）』周年篇2
7月10日　『子どもは授かりもの』本篇15（H17.7.10～8.14全6回）
8月21日　『英霊顕彰』本篇16（H17.8.21～9.25全6回）
10月　2日　『昭和天皇御巡幸』本篇17（H17.10.2～11.6全6回）
11月13日　『今こそ実行、日本の教育改革』本篇18（H17.11.13～12.25全6回）
12月18日　『教育問題／ゆとり教育を問い直す』特別篇3

平成18年（2006）

1月　1日　『平成18年日本の課題を展望する』年末年始篇5
1月　8日　『海の彼方のニッポン"台湾"を訪ねて～慰霊は日台の魂の交流』年末年始篇6
1月15日　『北朝鮮拉致問題』本篇19（H18.1.15～2.19全5回）
2月12日　『時事問題／皇位継承と皇室典範改定』特別篇4
2月26日　『日本の安全保障』本篇20（H18.2.26～3.26全5回）
4月　2日　『古高取』本篇21（H18.4.2～5.7全6回）
5月14日　『次代の担い手・大学生』本篇22（H18.5.14～6.18全6回）
6月25日　『幸せな結婚』本篇23（H18.6.25～7.30全6回）
8月　6日　『首相の靖國参拝』本篇24（H18.8.6～27全4回）
9月　3日　『私たちの国民保護法』本篇25（H18.9.3～24全4回）
10月　1日　『台中問題／ようこそ、第8次日華（台）親善友好慰霊訪問団へ』特別篇5
10月　8日　『まちづくり問題／よりよい福岡市づくりを』特別篇6
10月15日　『韓国最新レポート』本篇26（H18.10.15～11.19全6回）
11月26日　『満州事変・支那事変は侵略ではない』本篇27（H18.11.26～12.31全6回）

平成19年（2007）

1月　7日　『海の彼方のニッポン"台湾"を訪ねて～台湾防衛は英霊との約束』年末年始篇7
1月14日　『日韓併合を検証する』本篇28（H19.1.14～4.1全12回）
4月　8日　『日本のこころ～歌の玉手箱』本篇29（H19.4.8～5.13全6回）
5月20日　『国境の島・対馬を守れ』本篇30（H19.5.20～6.24全5回）
6月　3日　『真の日中友好を考える③　（増大する覇権主義中国の軍事的脅威に日台は如何に対応すべきか）』周年篇3
7月　1日　『元寇と博多』本篇31（H19.7.1～8.12全6回）
8月　5日　『くにづくり問題／世界一日本に自信と誇りを』特別篇7
8月19日　『安倍政権の成果を検証する』本篇32（H19.8.19～9.23全6回）
9月30日　『明日の日本を担う大学生』本篇33（H19.9.30～11.11全6回）
10月14日　『時事問題／沖縄戦集団自決の真相と教科書検定』特別篇8
11月18日　『時事問題／沖縄戦集団自決は軍命令ではない①』特別篇9
11月25日　『時事問題／沖縄戦集団自決は軍命令ではない②』特別篇10
12月　2日　『時事問題／教科書問題と沖縄県民の総意』特別篇11

12月 9日 『時事問題／中国の工作から沖縄を守れ』特別篇12
12月16日 『今上天皇の大御心』本篇34（H19.12.16～H20.1.19全6回）

平成20年（2008）

1月27日 『福田政権下の危険な政治課題』本篇35（H20.1.27～3.2全6回）
3月 9日 『台湾に慰霊の真心を尽して』本篇36（H20.3.9～4.13全6回）
4月20日 『環境問題への疑問』本篇37（H20.4.20～5.25全6回）
6月 1日 『新教育基本法のめざすもの』本篇38（H20.6.1～7.6全6回）
7月13日 『となりの国、中華人民共和国をよく知ろう』本篇39（H20.7.13～8.24全6回）
7月27日 『時事問題／天皇陛下御即位20年奉祝を全国各地で!』特別篇13
8月31日 『日本人と中国人はこれほども違う』本篇40（H20.8.31～10.5全6回）
10月12日 『今上天皇の御跡をお偲びして』本篇41（H20.10.12～11.9全5回）
11月16日 『時事問題／田母神論文と村山談話』特別篇14
11月23日 『日韓の歴史認識を考える』本篇42（H20.11.23～12.28全6回）

平成21年（2009）

1月 4日 『頑張ろう、日本。遠藤宣彦衆議院議員に聞く』年末年始篇8
1月11日 『日本は侵略国家であったのか』本篇43（H21.1.11～2.15全6回）
2月22日 『日台魂の絆・十年』本篇44（H21.2.22～3.29全6回）
4月 5日 『私たちの領土は私たちで守ろう』本篇45（H21.4.5～5.10全6回）
5月17日 『国の安全・食の安全・身の安全』本篇46（H21.5.17～6.21全6回）
6月28日 『北朝鮮の核兵器にいかに対抗するか』本篇47（H21.6.28～8.2全6回）
8月 9日 『日韓併合100年を考える』本篇48（H21.8.9～9.27全6回）
8月23日 『軍人墓地の管理は国の責任である』周年篇4
9月 6日 『まちづくり問題／歌と町おこし～故郷（ふるさと）を歌う』特別篇15
10月 4日 『時事問題／永住外国人地方参政権は実現させてはならない』特別篇16
10月11日 『福岡城と陸軍』周年篇5
10月18日 『日韓歴史問題の争点』本篇49（H21.10.18～11.22全6回）
11月29日 『心に留めたい日本の歴史・日本人①』本篇50（H21.11.29～H22.1.17全6回）
12月13日 『時事問題／ちょっとまって!夫婦別姓』特別篇17

平成22年（2010）

1月 3日 『日台魂の交流に触れて』年末年始篇9
1月24日 『心に留めたい日本の歴史・日本人②』本篇51（H22.1.24～31全2回）
2月 7日 『永住外国人地方参政権は百害あって一利なし』本篇52（H22.2.7～28全4回）
3月 7日 『英霊顕彰と日台魂の絆』本篇53（H22.3.7～4.11全6回）
4月18日 『日本に移民は必要か』本篇54（H22.4.18～5.23全6回）
5月30日 『「古高取」と「京陶工」』本篇55（H22.5.30～7.4全6回）
7月11日 『日本の子供たちの未来を守るために』本篇56（H22.7.11～8.15全6回）
8月22日 『民主党の危険な政策、法案』本篇57（H22.8.22～9.26全6回）
10月 3日 『民主党の危険な政策、法案（続編）』本篇58（H22.10.3～11.7全6回）
11月14日 『中国は日本を敵と見ている事を忘れてはならない』本篇59（H22.11.14～12.26全7回）

平成23年（2011）

1月 2日 『韓半島の情勢と大学生による日韓交流秘話～日韓連携で拉致問題の解決を目指して』年末年始篇10
1月 9日 『今思いおこす日本人の気概』本篇60（H23.1.9～2.13全6回）
2月20日 『歴史の争点』本篇61（H23.2.20～3.27全6回）
4月 3日 『実録台湾～これが真実の姿』本篇62（H23.4.3～5.8全6回）
5月15日 『沖縄戦集団自決最高裁判決は禍根を残す』本篇63（H23.5.15～29、6.12～26全6回）
6月 5日 『黄文雄先生　日本、中国の文化・政治・歴史を語る』周年篇6
7月 3日 『TPPは日本の国益となるのか』本篇64（H23.7.3～31、8.14全6回）
8月 7日 『時事問題／「千船保釣」を阻止せよ!～沖縄・尖閣諸島を守るわれらが闘い』特別篇18
8月21日 『時事問題／自民党地方組織・議員総局長 衛藤晟一参議院議員に聞く　民主党が進める危険な法案と尖閣問題の行方』特別篇19
8月28日 『中国のウソと日中歴史問題』本篇65（H23.8.28～10.2全6回）
10月 9日 『南京で何がおこったのか』本篇66（H23.10.9～11.13全6回）
11月20日 『韓国朝鮮に謝罪するいわれはない』本篇67（H23.11.20～12.25全6回）

平成24年（2012）

1月 1日 『日本再生は保守を旗幟（はたじるし）にして』年末年始篇11
1月 8日 『知って驚く韓国の主張』本篇68（H24.1.8～2.12全6回）
2月19日 『日本再建は歴史の智恵に学んで』本篇69（H24.2.19～3.25全6回）
4月 1日 『ありがとう台湾～世界一の親日国に感謝』本篇70（H24.4.1～5.6全6回）

5月13日 『日本の危機を突破せよ』本篇71（H24.5.13～6.17全6回）
6月24日 『中国が敵であることを忘れてはならない』本篇72（H24.6.24～7.8、7.22～8.5全6回）
7月15日 『まちづくり問題／歌と町おこし～国民が育つ郷土づくりを』特別篇20
8月12日 『まちづくり問題／福岡の恥・高島宗一郎市長の"中国公務員4,000人採用発言"を斬る』特別篇21
8月19日 『神話はなぜ消されたのか』本篇73（H24.8.19～9.23全6回）
9月30日 『反日中国・反日韓国にこう対処すべし』本篇74（H24.9.30～11.4全6回）
11月11日 『日本の礎、日本精神が世界を救う』本篇75（H24.11.11～12.16全6回）
12月23日 『日台・魂の絆、第14次慰霊訪問の旅を終えて』年末年始篇12
12月30日 『今年の日本の政治の総括と来年の展望』年末年始篇13

平成25年（2013）

1月6日 『参議院議員　中山恭子先生に聞く～親日国家ウズベキスタン』年末年始篇14
1月13日 『日本国成立の日～我々はいつ日本人になったのか』本篇76（H25.1.13～2.17全6回）
2月24日 『継承すべき日台の絆～世代の壁を乗り越えて』本篇77（H25.4.7～5.12全6回）
4月　7日 『中国韓国とは交戦中であることを覚悟せよ』本篇78（H25.4.7～5.12全6回）
5月19日 『靖國参拝に反対する中韓の目的』本篇79（H25.5.19～6.30全7回）
7月　7日 『韓国は叩け、さもなくばつけあがる』本篇80（H25.7.7～8.11全6回）
8月18日 『韓国とは対話は無用』本篇81（H25.8.18～9.22全6回）
9月29日 『韓国に不都合な真実』本篇82（H25.9.29～11.3全6回）
11月10日 『日露戦争に学ぶ日本人の気概』本篇83（H25.11.10、11.24～12.22全6回）
11月17日 『中国問題／恐怖の民事訴訟法第231条～進出した日台企業を身ぐるみ剥ぎ取る独裁中国の国家犯罪を暴く』特別篇22
12月29日 『衆議院議員　鬼木誠先生に聞く～マスコミを日本人の手に取り戻す道』年末年始篇15

平成26年（2014）

1月　5日 『文部科学副大臣　西川京子先生に聞く～教育再生こそ国づくりの根幹』年末年始篇16
1月12日 『日露戦争に学ぶ日本人の気概（続編）』本篇84（H26.1.12～2.16全6回）
2月23日 『15年かけて築いた日台の絆～かけがえのない家族交流・兄弟交流』本篇85（H26.2.23～3.30全6回）
4月　6日 『安倍首相は毎年靖國参拝をすべし』本篇86（H26.4.6～5.11全6回）
5月18日 『中共の台湾攻略を阻止せよ～中台両岸サービス貿易協定とひまわり学生運動』本篇87（H26.5.18～6.22全6回）
6月29日 『韓国には高飛車に出ろ』本篇88（H26.6.29、7.20～8.17全6回）
7月　6日 『護国の英霊に君が代を奉げて2千日～オペラ歌手 鶴澤美枝子の日本を取り戻す旅』周年篇7（H26.7.6全1回）
7月13日 『まちづくり問題／平成の初等中等教育は寺子屋で』特別篇23（H26.7.13全1回）
8月24日 『韓国軍のベトナム人大虐殺を告発する』本篇89（H26.8.24～9.28全6回）
10月　5日 『慰安婦問題 今こそ日本の冤罪を晴らす反撃を』本篇90（H26.10.5～11.9全6回）
11月16日 『外交の勝敗は歴史認識で決まる』本篇91（H26.11.16～12.21全6回）
12月28日 『ヘイトスピーチ規制論と日中首脳会談の意味』年末年始篇17

平成27年（2015）

1月　4日 『衆議院議員 鬼木誠先生に聞く～真に活力ある日本を取り戻すために』年末年始篇18
1月11日 『平成27年　日本の行く末を考える』本篇92（H27.1.11～25全3回）
2月　1日 『終戦70年・日韓国交正常化50年の歴史論争に勝つ』本篇93（H27.2.1～15全3回）
2月22日 『日本人のふるさとの宝庫・台湾～台湾にこそある原日本人への道標』本篇94（H27.2.22～3.29全6回）
4月　5日 『まちづくり問題／平和を祈る父子桜～沖縄特攻に散った戦艦大和と第二艦隊司令長官伊藤整一海軍大将』特別篇24（H27.4.5全1回）
4月12日 『日本国成立の日～あなたは日本の誕生日を知っていますか』本篇95（H27.4.12～26全3回）
5月　3日 『ひとづくり問題／日本人を掘り起こす～『日本人講座』』特別篇25（H27.5.3全1回）
5月10日 『古高取（直方市内ヶ磯窯）の陶工たちはだれだったのか』本篇96（H27.5.10～24全3回）
5月31日 『ひとづくり問題／日本人を掘り起こすII～『大日本帝國の先人の知』』特別篇26（H27.5.31全1回）
6月　7日 『終戦70年 大日本帝國の復権 明治－大正－昭和の発明家、技術者、学者たち』本篇97（H27.6.7～7.12全6回）
7月19日 『終戦70年 大日本帝國の復権 其の二 明治－大正－昭和の学者たち』本篇98（H27.7.19～8.23全6回）
8月30日 『黄文雄先生 終戦70年に福岡宣言を語る』周年篇8（H27.8.30全1回）
9月　6日 『施光恒先生に聞く 英語化は愚民化　日本の国力が地に落ちる』周年篇9（H27.9.6全1回）
9月13日 『終戦70年 大日本帝國の復権 其の三 明治－大正－昭和の実業家たち』本篇99（H27.9.13～10.18全6回）

10月25日 『終戦70年 大日本帝國の復権 其の四 明治－大正－昭和の軍人たち』本篇100（H27.10.25～11.29全6回）
12月 6日 『ひとづくり問題／日本人を掘り起こすIII～『素読と暗誦による国づくり』』特別篇27（H27.12.6全1回）
12月13日 『ひとづくり問題／岩屋城と高橋紹運』特別篇28（H27.12.13全1回）
12月20日 『今年1年を振り返って』年末年始篇19
12月27日 『我那覇真子が見た台湾』年末年始篇20

平成28年（2016）

1月 3日 『日本のこころを大切にする党代表 中山恭子が語る 平成28年』年末年始篇21
1月10日 『終戦70年 大日本帝國の復権 其の五 明治－大正－昭和の外交官と郷土福岡の偉人たち』本篇101（H28.1.10～2.14全6回）
2月21日 『日清講和条約締結120年／終戦70年 福岡宣言～原台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅』本篇102（H28.2.21～3.27全6回）
4月 3日 『領台時代から蔡英文までの台湾教育を語る』本篇103（H28.4.3～5.8全6回）
5月15日 『慰安婦問題の構造と理解と、慰安婦日韓合意』本篇104（H28.5.15～6.5全4回）
6月12日 『黄文雄先生 台湾維新元年に日台の魂の交流を語る』周年篇10（H28.6.12全1回）
6月19日 『武士道の覚醒への警鐘～岩屋城の戦い』本篇105（H28.6.19～7.24全6回）
7月31日 『ロシア革命100年を問う』本篇106（H28.7.31～9.4全6回）
9月16日 『日本人の心をつくる日本語を探る』本篇107（H28.9.16～10.16全6回）
10月23日 『まちづくり問題／朝鮮人強制連行を喧伝する国際交流広場と無窮花堂諸問題』特別篇29（H28.10.23全1回）
10月30日 『日本人を掘り起こす』本篇108（H28.10.30～12.4全6回）
12月11日 『施光恒先生に聞く 脱グローバル化時代の日本の針路～まっとうな国づくりへの回帰』周年篇11（H28.12.11全1回）
12月18日 『平成28年を振り返って』年末年始篇22（H28.12.18全1回）
12月25日 『第18次台湾慰霊訪問の旅を終えて』年末年始篇23（H28.12.25全1回）

平成29年（2017）

1月 1日 『戦線後方記録映画「南京」を語る』年末年始篇24（H29.1.1全1回）
1月 8日 『経済の知識が国民を賢くし国家を強くする』本篇109（H29.1.8～2.12全6回）
2月19日 『原子力発電に関する正しい知識と活用が日本を豊かにする』本篇110（H29.2.19～3.26全6回）
4月 2日 『台湾維新元年／孫文生誕150年～原台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅』本篇111（H29.4.2～5.7全6回）
5月14日 『政権発足一年目の蔡英文總統 ～ その展開と可能性』本篇112（H29.5.14～6.18全6回）
6月25日 『黄文雄先生に聞く「一つの中国」の挫折とグローバリズムの否定』周年篇12（H29.6.25全1回）
7月 2日 『郷土から消された歴史 ～ 玉砕・岩屋城の戦い』本篇113（H29.7.2～7.30全5回）
8月13日 『食品・薬品・添加物の恐怖～GHQによる人口削減計画』本篇114(H29.8.13～9.24全6回)
8月27日 『施光恒先生に聞く 道州制構想の落とし穴』周年篇13(H29.8.27全1回)
10月 1日 『原台湾人の日本語から読み取れる大和魂』本篇115(H29.10.1～H29.11.5全6回)
11月12日 『江戸時代を掘り起こす～皇国史観で評価されず、唯物史観に歪められた265年』本篇116（H29.11.12～12.17全6回）
12月24日 『今年1年を振り返って』年末年始篇25（H29.12.24全1回）
12月31日 『第19次台湾慰霊訪問の旅を終えて』年末年始篇26(H29.12.31全1回)

平成30年（2018）

1月 7日 『明治維新150年に思う』年末年始篇27（H30.1.7全1回）
1月14日 『終戦73年 大日本帝国の復権 其の六 江戸時代から明治の国学者たち』本篇117（H30.1.14～2.18全6回）
2月25日 『日台の魂の交流／南京攻略80年～原台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅』本篇118（H30.2.25～4.1全4回）
3月 4日 『再生可能エネルギーのまやかし』本篇119（H30.3.4～3.11全2回）
4月 8日 『地元神社消滅の危機～地域共同体を守る戦い』本篇120(H30.4.8～5.13全6回)
5月20日 『戦艦大和からのメッセージ』本篇121（H30.5.20～6.10全4回）
6月17日 『明治維新の～領台50年と戦後70年の台湾の歩み』周年篇14(H30.6.17全1回)
6月24日 『婦人の復権～家庭の問題を考える』本篇122（H30.6.24～7.1全2回）
7月 8日 『郷土から消された歴史～落城・岩屋城の戦い』本篇123(H30.7.8～8.12全6回)

平成15年10月5日の第1回放送開始以来、平成30年8月12日の第776回まで、延べ3,895人、正味457人の皆様にご出演いただきました。14年と10ケ月余に亘る献身的なご奉仕に深甚なる謝意を表す次第です。

番組開始15周年
「支える会」のあゆみ

平成12年（2000）

3月 3日　FM-MiMi開局…1

平成15年（2003）

8月30日　日本会議福岡主催の時局講演会開催(会場/女性センターアミカス)
講師/伊藤哲夫氏(日本政策研究センター所長)、演題/『男女共同参画社会を考える』…2
10月 1日　「日曜討論」事務局を日本教育開発内に開設…3
「FM-MiMi日曜討論」 放送開始
10月 5日　コメンテーター確定(小菅1人体制)
収録CD(テープ)贈呈開始…4
10月25日　『FM日曜討論会大反響』西日本新聞朝刊に掲載…5
11月 9日　第1回慰労会(梅の花 9名)…6
12月15日　ライセンスメイト連載開始…7
12月21日　第2回慰労会(梅の花 9名)…8

平成16年（2004）

4月 4日　第3回慰労会(ウォーターリリー 13名)…9
5月15日　ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…10
8月 8日　第4回 慰労会 (花万葉 24名)
※「FM-MiMi日曜討論番組を支える会」発起人会兼ねる〈以下「支える会」と表記〉…11
9月26日　第5回慰労会（花万葉 14名）…12

平成17年（2005）

3月 5日　第6回慰労会（花万葉 15名）…13
4月 1日　日本会議福岡の番組後援決定…14
4月 3日　コメンテーター増員(香月、伊藤が加わり3人体制へ)…15
8月15日　ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…16
8月21日　「支える会」 設立の集い・懇親会(平和樓 32名)…17
10月 2日　スポンサートーク開始…18

平成18年（2006）

3月 3日　放送局の名称変更（「FM-MiMi」から「StyleFM」）を機に番組名称を従来の「FM-MiMi日曜討論」から「StyleFM日曜討論」に変更
※これに伴い「FM-MiMi日曜討論番組を支える会」の名称も「StyleFM日曜討論番組を支える会」に変更…19
6月20日　「日曜討論かわら版」第1号発行（毎月20日発行）…20
8月15日　ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…21
8月20日　「支える会」懇親会(テルラホール32名)役員改選、会計年度変更（→総会化）…22
10月 1日　コーヒーブレイク開始…23

平成19年（2007）

6月15日　ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…24
8月19日　第1回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール38名)
江崎道朗先生（日本会議経済人同志会）「誇りある国づくり運動におけるメディア戦略の位置づけ」…25
12月 1日　「日本の息吹」にStyleFM日曜討論座談会記事掲載…26

平成20年（2008）

3月 3日　「StyleFM日曜討論」ホームページ開設…27
7月 1日　「支える会」 ホームページ開設…28
8月17日　第2回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール44名)
講師/江崎道朗先生（日本会議経済人同志会）
「国益を守り真実を語り誠心を尽くすことに休日なし」…29
9月15日　ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…30
10月 6日　ライセンスメイト・日曜討論かわら版をのぞく一般媒体による番組告知試行開始…31

平成21年（2009）

6月15日　ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…32
8月23日　第3回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール47名)
江崎道朗先生（日本会議経済人同志会）「偏向報道の連鎖を断ち切ろう!―NHKスペシャル『JAPANデビュー』の偏向報道の裏にあるもの」…33
12月11日　第1回「支える会」年末総会・新会員歓迎会(花万葉24名)…34

平成22年（2010）

3月 6日　StyleFM開局10周年記念パーティ（JALリゾートシーホークホテル福岡「支える会」から3名参加）…35
5月13日　産經新聞で「日本に移民は必要か」意見広告掲載…36
6月15日　ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…37
8月22日　第4回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(テルラホール103名)
清水馨八郎先生（千葉大学名誉教授）「日本文化・文明の本質―参院選と民主党の正体・W杯の総括などを通して」…38
10月 1日　「日曜討論」スタジオを日本教育開発内に開設…39
10月22日　産經新聞で「尖閣諸島は先祖から受け継いだ私たち日本の国の領土です」意見広告掲載…40
11月 1日　放送局の名称変更（「StyleFM」から「NewVoice」）を機に番組名称を従来の「StyleFM日曜討論」から「スタジオ日本 日曜討論」に変更
※これに伴い「StyleFM日曜討論番組を支える会」の名称も「スタジオ日本　日曜討論番組を支える会」に変更…41
11月 7日　従来のラジオ（コミュニティFM）による放送を改めインターネット（ユーストリーム）による放送開始…42
12月10日　第2回「支える会」年末総会・新会員歓迎会(松幸40名)…43

平成23年（2011）

3月 2日　第1回スタジオ日本専任技術者研修会(てら岡7名)…44
8月21日　第5回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール82名）
江崎道朗先生（日本会議専任研究員）「マスコミの報じない歴史の真実／開戦70周年～東京裁判史観の見直しがアメリカで始まった」…45
9月15日　ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…46
10月 1日　インターネットユーストリームによる放送期間(現在～平成22年11月)の解説表示付アーカイブ公開　※動画と音声と文字…47
11月 4日　産經新聞で「九州電力に感謝し、心から応援します。」意見広告掲載…48
11月 9日　第2回スタジオ日本専任技術者研修会（松幸10名）…49
12月 9日　第3回「支える会」年末総会・新会員歓迎会（松幸35名）…50
12月22日　産經新聞九州総局　野口裕之総局長歓迎会（セントラルホテル 10名）…51

平成24年（2012）

2月20日　日本会議福岡かわら版による番組告知開始…52
2月27日　産經新聞で「待望の『日曜討論全番組アーカイブス』4月公開!」意見広告掲載…53
4月 1日　「日曜討論」全番組アーカイブ公開…54
6月24日　第3回スタジオ日本専任技術者研修会（花万葉9名）…55
8月 4日　産經新聞九州総局 野口裕之総局長送別会（江藤家 9名）…56
8月 5日　産經新聞で「福岡市長 髙島宗一郎くん いいかげん 国を売るのはおやめなさい。」意見広告掲載…57
8月 6日　産經新聞で「福岡市長 髙島宗一郎くん いいかげん 国を売るのはおやめなさい。」意見広告掲載…58
8月21日　福岡市庁舎を包囲し、登庁する職員に「産經新聞意見広告（8月5日・6日）」を配布し、覚書の白紙撤回を呼びかける
※7:30～8:30 10名 1,000枚（A3両面2折） 快晴…59
8月26日　第6回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール 71名）
小山和伸先生（メディア報道研究政策センター理事長）「反日国家の対日政策に呼応、国家崩壊を目論

	む内なる敵 反日メディアを糾す」…60
9月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…61
12月21日	第4回「支える会」年末総会・講演会・新会員歓迎会(松幸 60名)
	中山恭子先生（参議院議員）「あの日、あの時。」…62

平成25年（2013）

3月23日	産經新聞九州総局　石橋文登総局長歓迎会（花万　8名）…63
8月25日	第7回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール 58名）
	葛目浩一先生（新聞「アイデンティティ」主幹）「ミニコミ紙で出来る戦後秩序の変革－東京裁判史観と決別し、世界に冠たる道義国家を再建しよう」…64
9月　1日	「日曜討論」赤坂スタジオ開設…65
9月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…66
10月　8日	「スタジオ日本　日本人講座」発起人会〈以降「日本人講座」と表記〉…67
11月　1日	日本の息吹による番組告知開始…68
12月20日	第5回「支える会」年末総会・講演会・新会員歓迎会(松幸 50名)
	西川京子先生（文部科学副大臣）「教育再生こそ国づくりの根幹」…69

平成26年（2014）

1月21日	「日本人講座」事務局を日本教育開発内に開設…70
4月19日	「日本人講座」開講…71
5月18日	フェイスブックによる番組告知開始…72
8月24日	第8回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール 107名）
	山口敏昭先生（日本時事評論論説委員）「目から鱗のホントの話―今、“当たり前”を言語化する必要性」…73
8月30日	産經新聞社西部本部と語る会（わが家白金　13名）…74
9月　5日	フクニチ住宅新聞による番組告知開始…75
9月10日	九栄会かわら版による番組告知開始…76
9月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…77
9月19日	読売新聞による番組告知開始…78
9月20日	毎日新聞による番組告知開始…79
9月27日	産經新聞による番組告知開始…80
10月　1日	「日曜討論」全番組アーカイブをユーチューブにて公開…81
10月18日	西日本新聞による番組告知開始…82

平成27年（2015）

3月15日	第1回「日本人講座」特別講演会（松幸 55名）
	倉山満先生（国士舘大学講師）「大日本帝國憲法について～幕末から明治にみる国づくり職人たちの気概と軌跡」
	※福岡縣護國神社参拝後…83
3月15日	第6回「支える会」新会員歓迎会（松幸 40名）…84
4月11日	朝日新聞による番組告知開始…85
5月　3日	「日本人講座」日曜討論番組に登場（ユーチューブ）…86
8月23日	第9回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール　93名）佐々木類先生（産經新聞　九州総局長）「第3次安倍政権と国際情勢の行方」…87
8月28日	産經新聞社西部本部と語る会（わが家白金　14名）…88
9月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…89

平成28年（2016）

3月　5日	第2回「日本人講座」特別講演会（テルラホール　92名）我那覇真子先生（「琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会」代表運営委員）「琉球新報・沖縄タイムスを正す－ウソ・捏造・世論操作を許さない」…90
	第7回「支える会」新会員歓迎会（テルラホール　31名）…91
3月　5日	産經新聞社西部本部と語る会（千羽鶴 22名）…92
6月21日	第1回「支える会」記念講演会（アーバン・オフィス天神
7月23日	77名）鶴田東洋彦先生（産經新聞社東京本社常務取締役）「産經新聞が伝えたいこと」※掲載記事：産經新聞7月24日…93
9月　3日	第10回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール　78名）施光恒先生（九州大学大学院准教授）「英語化は愚民化―日本の国力が地に落ちる」…94
9月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…95
10月　2日	岩屋城史の会　岩屋城・落城顕彰の集い「戦国史研究家（岩屋城史の会名誉顧問）故・吉永正春氏を偲ぶ」講話：小菅亥三郎　随行：なし（筑紫野市生涯学習センター）…96
10月12日	福岡西ライオンズクラブ　例会「高橋紹運と武徳の文化」講話：小菅亥三郎　随行：なし（西鉄グランドホテル）…97
10月17日	「日曜討論」舞鶴スタジオ開設…98
12月　5日	西川京子顧問の九州国際大学学長就任をお祝いする会（リーガロイヤルホテル小倉 1名）…99
12月10日	第1回日本人講座年末総会・慰労会（峰松本家 19名）…100

平成29年（2017）

1月12日	YouTubeアカウント停止によりアーカイブ372本が閲覧不可状態…101
1月14日	第1回「日本人講座」新年会（花万葉 17名）…102
3月　2日	YouTubeアカウント停止によりアーカイブ21本が閲覧不可状態…103
3月　4日	第3回「日本人講座」特別講演会（テルラホール　94名）馬渕睦夫先生（元駐ウクライナ兼モルドバ大使）「トランプ大統領で世界はどうなる」※掲載記事：産經新聞3月5日…104
3月　4日	第8回「支える会」新会員歓迎会（テルラホール 40名）…105
3月29日	YouTubeアカウント停止…106
4月　6日	独自ドメインによる「スタジオ日本日曜討論（touron.live）」のホームページが完成…107
7月　5日	第4回産經新聞社西部本部と語る会（花万葉 24名）…108
7月22日	第2回「支える会」記念講演会（グランカフェ　61名）鈴木裕一先生（産經新聞社西部本部執行役員西部代表）「天皇陛下のご譲位と今後の課題」…109
9月　2日	第11回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール 95名）馬渕睦夫先生（元駐ウクライナ兼モルドバ大使）「グローバリズムの終焉～激動の国際情勢を生き抜く知恵」※掲載記事：産經新聞9月3日…110
9月10日	西川京子顧問の叙勲(旭日重光章受章)をお祝いする会（リーガロイヤルホテル小倉 1名）…111
9月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…112
9月23日	岩屋城史の会　玉砕・岩屋城と御神木護持、勇魂顕彰の集い「戦国の華高橋紹運公の忠義と報恩」座談会：小菅亥三郎 随行：なし（太宰府館）…113
12月　2日	第2回「日本人講座」年末総会・慰労会（花万葉 14名）…114
12月14日	アーカイブ復旧宣言／平成29年1月12日と3月2日にYouTubeによるアカウント停止にともない閲覧出来なくなった日曜討論番組のアーカイブ330本(平成22年11月から平成29年2月までの6年と4ヶ月分）の復旧が完了※なお、特別報道番組49本を除く日曜討論番組の復旧には平成29年1月12日から12月14日まで337日間を要した…115

平成30年（2018）

1月13日	第2回「日本人講座」新年会（花万葉 10名）…116
3月　3日	第4回「日本人講座」特別講演会（テルラホール　77名）仲新城誠先生（八重山日報編集長）「偏向の沖縄で『第三の新聞』を発行する」…117
3月　3日	第9回「支える会」新会員歓迎会（テルラホール 34名）…118
5月14日	神社シリーズ「地元神社消滅の危機～地域共同体を守る戦い」6回分（平成30年4月8日～5月13日放送）をYouTube公開再開…119
7月18日	第5回産經新聞社西部本部と語る会（花万葉 25名）…120
7月21日	第3回「支える会」記念講演会（アーバン・オフィス天神 92名）宮本雅史先生（産經新聞社東京本社編集委員）「爆買いされる日本の領土～外国人の土地取得に規制なし（世界唯一）国土をダンピングして国家といえるか」…121

『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

皆様のご入会を心からお待ちしています

役員さんをご紹介します

顧問	鬼木　誠	衆議院議員
顧問	中山恭子	参議院議員
顧問	西川京子	九州国際大学学長
顧問	横尾秋洋	筑紫野市議会議長
顧問	多久善郎	日本協議会理事長
相談役	松俵義博	松俵建設(株)会長
相談役	関　文彦	(株)関家具代表取締役
相談役	松尾嘉三	九栄会会長
相談役	富原　浩	(株)中部鋼材代表取締役
相談役	高島照彦	(株)リライエステート代表取締役社長
相談役	吉村弘美	アミティエカンパニー(有)代表取締役
参与	宮原　泉	福岡県海交会会長
代表世話人	小菅亥三郎	(専)ライセンスカレッジ理事長
副代表世話人	香月洋一	(医)香月内科医院理事長
副代表世話人	原田泰宏	九州伝承遺産ネットワーク特別顧問
世話人	田中道夫	(株)ハウジングアーキテクチャーCEO
世話人	施　光恒	九州大学大学院准教授
世話人	木村秀人	元高等学校教諭
世話人	川口武壽	直方食糧販売(株)代表取締役社長
世話人	安倍輝彦	(財)北九州上下水道協会非常勤理事
世話人	梶栗勝敏	日本会議福岡事務局長
世話人	柴崎一郎	岩屋城史の会代表主宰
世話人	髙橋幸久	建設会社勤務
世話人	大山　猛	元会社員
世話人	田口俊哉	会社員
世話人	久野貴子	主婦
世話人	松尾一郎	日中関係史研究家
世話人	柳原憲一	柳原皮膚科クリニック理事長
世話人	福田章枝	高等学校教諭
番組構成	五郎丸浩	(専)ライセンスカレッジ校長
会員管理	岩崎美和	(株)日本教育開発
会員管理	茅野紀子	(株)日本教育開発
会計	茅野輝章	(株)日本教育開発
監事	木下　修	会社員

〔順不同〕

会則をご覧下さい

第１条（名称）
本会は「スタジオ日本日曜討論番組（以下「番組」と称す）を支える会」と称する。

第２条（事務局）
本会の事務局は福岡市中央区天神1-3-38に置く。

第３条（目的）
本会は①「誇りある国づくり」のための番組の制作及び継続、
②番組の放送主体であるスタジオ日本（以下「スタジオ」と称す）の後援、
③出演者（制作者含む）相互の研鑽及び親睦のための日本人講座の開講及び継続をその目的とする。

第４条（会員）
本会の会員は次の３種とする。
①特別会員　本会の目的に賛同し、本会の運営を財務面で支援でき、入会金、年会費を納める法人又は個人。
②正会員　本会の目的に賛同し、番組成立や会員拡大に協力でき、入会金、年会費を納める者。
③番組会員　本会の目的に賛同し、入会金、年会費を納める者。

第５条（入会）
本会に入会を希望する者は所定の申込手続により、入会することができる。

第６条（会費）
本会の運営は入会金、会費、協賛金、協力金、寄付金によりこれを行う。
①会員として入会を希望する者は、入会金1,000円と会費を入会と同時に納入する。
②特別会員の会費は年額で法人120,000円、個人10,000円とし、3月末日までに翌年度分を一括して納入する。
③正会員の会費は年額5,000円とし、3月末日までに翌年度分を一括して納入する。
④番組会員の会費は年額3,000円とし、3月末日までに翌年度分を一括して納入する。

第７条（会計年度）
本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第８条（役員）
本会に次の役員を置く。

顧問	若干名	有識者他。
相談役	若干名	経営者他。
参与	若干名	団体運営経験者他。
代表世話人	１名	会を代表し、会務を統括。
副代表世話人	若干名	代表世話人を補佐し、番組を企画。
世話人	若干名	代表世話人の命を受けて、会務を処理。
番組構成	１名	番組制作、台本資料準備。
会員管理	若干名	入会受付、連絡対応。
会計	１名	会員管理、会計処理。
監事	１名	会計監査。

第９条（役員の任期）
役員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第10条（役員の選任）
①役員は原則として番組出演者から選任する。
②世話人は会員のうちから、代表世話人、副代表世話人は世話人のうちからそれぞれ役員会において選任する。

第11条（役員会）
役員会は代表世話人が必要に応じ招集する。

第12条（総会）
総会は原則として毎年９月にスタジオとの調整をとり開催することとし、代表世話人及び役員会において必要と認めたときには、臨時総会を開催することができる。

第13条（総会の構成及び議決）
総会は会員の出席をもって成立し、議事については出席会員の過半数の賛成で議決する。

好評配信中！
（毎週日曜日10:00～12:30）

インターネット生放送番組

スタジオ日本日曜討論の視聴方法

スタジオ日本日曜討論　番組URL

https://touron.live

番組は、インターネットのアドレスバーに「touron.live」と入力するか、
インターネットで「スタジオ日本日曜討論」と検索して
番組ホームページからご覧いただけます。

また、スマートフォンやタブレットでもご視聴いただけます。

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会にご入会下さい。

平成15年10月の放送開始以来、この番組に出演されたリスナーの皆様を中心に設立されたのが「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」です。当会では、この番組に協力していただける新会員を広く募集しております。入会ご希望の方は当会事務局までお気軽にご連絡ください。詳しい案内資料をお送りいたします。

季刊誌ライセンスメイトによる特集
番組の発展と支援の輪を拡げてきた毎年毎年の集大成作業

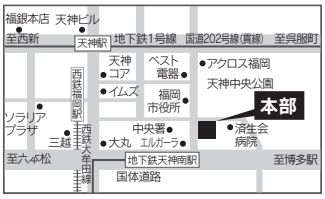
『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』の皆様に毎月送られる「かわら版」と出演者に送られるDVD

【スタジオ日本 日曜討論番組を支える会　会費区分】

☆特別法人会員	120,000円
☆特別個人会員	10,000円
☆正会員	5,000円
☆番組会員	3,000円

※いずれも年会費で、別途入会金1,000円が必要です。

あなたのご支援が世論をつくります！



スタジオ日本
日曜討論番組を支える会

●事務局　福岡市中央区天神1-3-38

TEL(092)721-0101

FAX (092)725-3190

URL　https://touron.live

Eメール　touron@l-mate.net

昭和36年11月6日　第三種郵便物認可

ライセンスメイト秋号（第1巻250号通巻576号）

平成30年9月15日発行（年4回発行）

発行所　株式会社 日本教育開発　〒810－0001福岡市中央区天神1－3－38

定価772円　本体価格715円

還付先 〒810－0001 福岡市中央区天神1－3－38／「ライセンスメイト」読者サービス係